

瀬戸内町

# 観光振興計画

2018年度～2022年度



## 目次

1. 計画策定にあたって	1
(1) 計画策定の目的	1
(2) 計画の位置づけ	2
(3) 計画の期間	2
(4) 上位・関連計画	3
2. 瀬戸内町観光の現状と課題	10
(1) 奄美大島の観光の現状	10
(2) 瀬戸内町の観光の現状	15
(3) 来訪者の現状とニーズ（アンケート調査結果）	23
(4) 地域の意向	36
(5) 瀬戸内町の観光の課題	37
3. 瀬戸内町観光振興の基本方向	38
(1) 基本理念	38
(2) 基本方針	39
(3) 数値目標	40
(4) 観光振興計画の体系図	41
4. 基本施策	42
5. 重点整備エリアの活用方針	45
(1) 重点整備エリアの考え方	45
(2) 重点整備エリア	45
参考資料	47
参考1 瀬戸内町観光振興計画策定委員名簿	47
参考2 瀬戸内町観光振興計画策定委員会設置要綱	48
参考3 策定の主な経過	49
参考4 参考4 アンケート調査票	50
(1) 来訪者向けアンケート調査票	50
(2) 宿泊客向けアンケート調査票	54

# 1. 計画策定にあたって

## (1) 計画策定の目的

2013年1月、政府は「奄美・琉球」をユネスコの世界自然遺産登録候補地としての推薦の前提となる暫定リストへ記載を決定し、同年12月には、国、鹿児島県及び沖縄県が共同で設置した「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」が、候補地として奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島を選定、2017年3月には、世界自然遺産登録の前提となる「奄美群島国立公園」として指定され、2018年夏頃の登録を目指し、国、鹿児島県及び各市町村が連携し、外来種対策や希少種の保護、普及啓発等様々な取り組みを進めている。

一方、奄美－鹿児島・大阪間でのジェット機の就航や東京直行便の開設、さらに2014年7月の奄美－成田空港間、2017年3月の奄美－関西空港間のLCC就航といった輸送力の拡大に伴い、奄美大島への入込客は増加しており、世界自然遺産登録後は一層の増加が見込まれている。

本町においては、2009年に「第4次瀬戸内町長期振興計画」、2015年12月に「瀬戸内町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、観光産業の振興に向けた取組を実施しているが、旅行者層の拡大や多様化するニーズへの対応を含め、増加する観光客への対応が喫緊の課題となっている。

また、奄美大島全体においては、一般社団法人あまみ大島観光物産連盟が、一つの「島」として、個々の観光ニーズを満たす情報の一元化（ウェブプロモーションサイト「あまみっけ」）や観光ワンストップサービスを実現するためのDMO構築に取り組んでおり、こうした奄美大島全体の取組と連動性を持たせた観光振興を進めていく必要がある。

そこで、本町では、このような観光を取り巻く状況とその課題に柔軟に対応し、本町独自の自然、歴史、文化、産業、食、暮らしといった豊富な資源と地域特性を活かした観光振興により町全体の活性化につなげることを目的として、瀬戸内町観光振興計画を策定する。



スリ浜

## (2) 計画の位置づけ

観光は、地域の振興、産業の振興、雇用の創出等地域社会に大きな役割を果たすものであり、旅行業や宿泊業にとどまらず、観光施設や飲食業、土産品販売を含む小売業、さらには農林水産業、製造業等様々な業種または産業へ波及効果のある複合産業である。

また、観光は町内外の観光客によって成り立つことから地域の顔を映す産業とも言われている。本町の育んできた固有の観光資源を地域に住む人々が誇りに思い、その魅力を最大限に発揮できれば、さらに多くの観光客を惹きつけ情報発信による相乗効果が生まれる。

世界自然遺産登録を見据え、交流人口の増加が図られることにより、観光の振興は、広範囲の産業に影響を及ぼすとともに雇用の機会を生み出すなど、本町の産業の核となり得るものだと考えられる。

本振興計画では、最上位計画である「第4次瀬戸内町長期振興計画」（2009年度～2018年度）と、今後策定予定の「第5次瀬戸内町長期振興計画」（2019年度～）における本町の将来像を描く上で必要とされる新たな視点に留意するほか、2015年12月に策定した「瀬戸内町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2015年度～2019年度）やその他関連計画との連携・整合性を図るものとする。

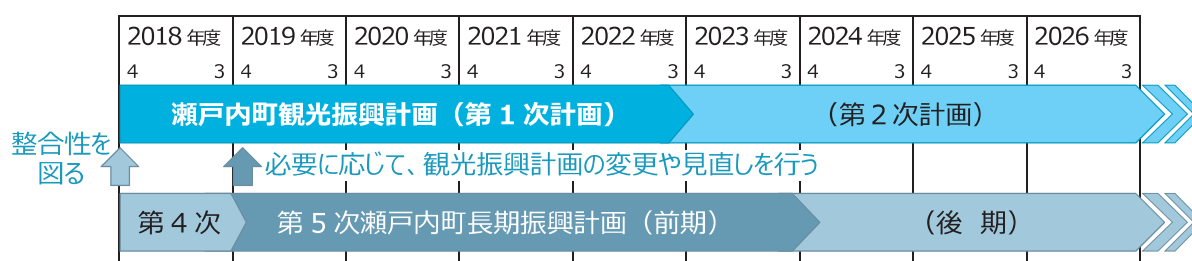
なお、本振興計画の実効性を高めるには、実施計画や整備計画を策定し、より具体的な個別計画や事務事業計画に基づき確実に進めていく必要があり、奄美大島全体の動きを見据え、島内外の関係機関と連携しながら、優先順位をつけて取り組むこととする。

## (3) 計画の期間

計画期間は、本町全体の長期的なまちづくりの指針である第5次瀬戸内町長期振興計画（2019年度～）との整合性を図るため、2018年度から2022年度までの5年間とする。

なお、計画策定後は、計画の進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会・経済状況の変化や観光客のニーズや価値観の多様化にも適切に対応するため、必要に応じて計画内容の変更や見直しを随時行うこととする。

〔計画期間の考え方〕



## (4) 上位・関連計画

本振興計画を策定するにあたり、本町の上位・関連計画として「第4次瀬戸内町長期振興計画」、「瀬戸内町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、奄美大島、奄美群島全体の計画として「奄美群島振興開発計画（鹿児島県）」、「奄美群島成長戦略ビジョン（奄美群島広域事務組合）」、「奄美大島中長期観光戦略（一般社団法人あまみ大島観光物産連盟）」の概要及び観光に関する施策について整理した。

### ①第4次瀬戸内町長期振興計画 後期基本計画（瀬戸内町 2014年策定）

#### ア) 計画策定の目的

2009年度に策定した「第4次瀬戸内町長期振興計画」における基本構想を継承しながら、社会経済情勢の変化や町民ニーズを踏まえた上で、地方分権社会に対応した魅力あるまちづくりを積極的に推進するため「後期基本計画」を策定する。

#### イ) 計画期間

2014年度～2018年度（5か年）

#### ウ) まちづくりの理念と将来像

- まちづくりの理念 自然・文化を生かした住民参加・人づくりのまち
- 目指す将来像 町民一人ひとりが創り育む住民参加・人づくりのまち

#### エ) 施策の大綱

- 共生・協働によるまちづくり
- 健康で共に支え合う福祉のまちづくり
- 地域の特色を活かした教育・文化のまちづくり
- 安心・安全で快適に暮らせる循環型のまちづくり
- 豊かな資源を活かした地域産業を創出するまちづくり
- 快適で活力ある住みよいまちづくり
- 行財政改革の推進による持続可能なまちづくり

## オ) 観光に関する施策の位置づけと内容

○豊かな資源を活かした地域産業を創出するまちづくり

→第5節 観光の振興 観光資源の複合的な活用

→具体的な施策

具体的な施策	内容
○組織体制等の充実	・観光産業の振興 ・運営組織等の充実
○宣伝誘致活動の推進	・観光情報の提供 ・旅行業者・輸送機関等の連携 ・大型客船の誘致
○観光資源の 総合的かつ複合的な活用	・観光資源の保全と活用 ・祭り・イベントの充実
○観光ネットワークの形成	・観光資源ネットワークの形成 ・琉球弧の島々とのタイアップの形成
○受入態勢等の整備	・人材育成・技術技能の向上 ・「おもてなしの心」の涵養 ・観光案内板の整備

## ②瀬戸内町まち・ひと・しごと創生総合戦略（瀬戸内町 2015年12月策定）

### ア) 戦略策定の趣旨

進行する人口減少に歯止めをかけるため、住民や企業、教育機関、金融機関等も一体となった「チーム瀬戸内」で、合計特殊出生率の向上、転入者の増加、転出者の抑制等を目指す「瀬戸内町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する。

### イ) 戦略の位置づけ

国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則などを基に、瀬戸内町人口ビジョン（奄美大島人口ビジョン）を踏まえ、2015年度を初年度とする今後5か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をとりまとめている。

### ウ) 計画期間

2015年度～2019年度（5か年）

### エ) 将来像及び基本目標

○人口目標 2060年の総人口7,800人

○基本目標 ①瀬戸内町における安定した雇用を創出する。

②瀬戸内町への新しい人の流れをつくる。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。

④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

## オ) 観光に関する施策の位置づけと内容

○基本目標 ①瀬戸内町における安定した雇用を創出する。

→数値目標

指標	現状 (2014)	数値目標 (2019)
就業者数	2,932 人	3,000 人
事業所数	614 ヶ所	630 ヶ所
1 人当たり町民所得	2,085 千円	2,300 千円

→具体的な施策 ③地域産業の競争力強化 (分野別取組)

具体的な施策	KPI	目標値	担当課
○観光ガイド協会の設立 ・島案内人育成講座の認定者を中心にガイド協会を設立 ・各種ガイドの育成や着地型観光の商品化、観光関係団体との連携強化	プロガイド 育成人数	10 人	商工 観光課

○基本目標 ②瀬戸内町への新しい人の流れをつくる。

→数値目標

指標	現状 (2014)	数値目標 (2019)
転入者数	458 人	毎年 476 人以上
転出者数	480 人	毎年 453 人以下
入込客数	96,855 人	130,000 人

→具体的な施策 ②広域連携による観光の推進

具体的な施策	KPI	目標値	担当課
○奄美大島サンセットプロモーション事業 ○奄美大島観光物産協会組織強化事業 (Web プラットフォーム構築) ○奄美大島観光物産協会組織強化事業 (DMO 事業)	奄美大島 観光物産協会 HP 閲覧数	300 万 PV	広域 連携
	同協会 問合せ件数	7,000 件	
	同協会 SNS の 更新頻度	10 件/月	
○奄美空港観光誘客促進事業	奄美大島 入込客数	44 万人	

### ③奄美群島振興開発計画（鹿児島県 2014年5月策定）

#### ア) 策定年度と策定主体

奄美群島振興開発特別措置法に基づいて策定するものであり、国、県、奄美群島の市町村、地元住民、関係機関・団体等が一体となって、地元の発意・創意工夫を活かしつつ自律的發展を目指す上で必要な、今後の奄美群島の振興開発の基本的方針と各島における振興方策を示すもの。

#### イ) 計画期間

2014年度～2018年度（5か年）。

#### ウ) 計画の目標

本計画に基づく事業を推進することにより、奄美群島の基礎条件の改善や地理的及び自然的特性に応じた同群島の振興開発を図り、同群島の自立的發展、地域住民の生活の安定及び福祉向上、定住促進を図る。

#### エ) 振興開発の基本的方針

- 1) 地域主体の取組の推進
- 2) 定住を促進するための方策（重点3分野：農業、観光、情報通信業）
- 3) 交流拡大のための方策
- 4) 奄美群島が抱える条件不利性の改善
- 5) 群島の生活基盤の確保・充実

#### オ) 観光に関する方策と内容

- 3) 交流拡大のための方策
  - 奄美ならではの自然・文化等の地域資源の活用
    - ・地域資源を生かした観光施策の展開（観光資源の活用、観光施設等の受入態勢の整備、観光交通体系の整備、魅力ある観光情報の発信、地域産業との連携、アジアを視野に入れた観光施策の推進）
    - ・愛着を育む地域文化の継承、創造
    - ・群島内外との交流の促進
  - 世界自然遺産登録に向けた施策の展開
    - ・共生ネットワークの形成
    - ・世界自然遺産登録に向けた取組の推進
    - ・地域環境の保全
    - ・循環型社会の形成
    - ・自然環境配慮型・自然再生型公共事業等の実施

#### ④奄美群島成長戦略ビジョン基本計画（奄美群島広域事務組合 2014年2月策定）

##### ア) 基本計画策定の意義と性格

奄美群島成長戦略ビジョン基本計画の策定の意義は、今後、地元市町村が新たな制度・支援等（交付金制度や新たな産業振興施策等）を有効に活用したビジョン実現のための取組を明らかにすることによって、行政、民間が共通の認識を持ち、群島が一体となってビジョンの実現をより着実なものとするところである。

基本計画は、ビジョン実現のために取り組むべき施策内容について行政と民間が共通の認識を持ち、ビジョンの実現をより着実なものとするという面と併せて、鹿児島県が策定する奄美群島振興開発計画に対する市町村案として、特に3分野（農業、観光／交流、情報）＋2分野（文化、定住）において雇用の創出に重点化したプロジェクトという面を持つ。

##### イ) 基本計画（前期）の期間

奄美群島成長戦略ビジョンの期間である2014年度から2023年度までの10年間のうち、2014年度から2018年度までの前期5年間

##### ウ) 基本計画の目標（奄美群島成長戦略ビジョン基本理念に則った10年後の将来像）

- 1) 若者がチャレンジし、夢を実現する島
- 2) 全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島
- 3) 世界の人々に魅力を伝える宝の島

##### エ) 基本計画の内容（奄美大島の基本計画）

###### ○人材の確保・育成、教育

- ・しまコンシェルジュやシマの案内人等のボランティアガイド、体験型地域文化教育等を推進する。
- ・新規就農者や大規模農家、女性農業士等、地域農業のリーダーとなりうる農家の育成、エコツアーガイドや外国人観光客に対応できる人材などの世界自然遺産登録を見据えた人材の確保を図る。
- ・遊休施設やICT等を活用した教育環境整備や、子育て支援、ふるさと留学制度、新規高卒者の地元企業による正規雇用やインターンシップ促進等の支援制度の充実、空き家改修をはじめとする定住促進支援等を推進する。
- ・情報通信産業の振興や各種産業のさらなる振興のための情報産業イノベーション支援、起業家・産業リーダーの育成等に取り組む。

###### ○奄美大島の魅力の発揮

- ・自然散策遊歩道等の整備や本場奄美大島紬の古典柄の活用検討、昔ながらの屋根葺き技術の伝承等、地域住民を巻き込んだ文化保存の議論の深化等、ハード・ソフトの両面に取り組む。
- ・世界自然遺産登録を見据えた景勝地における展望施設等、景観資源の保存・活用に関する施策に取り組む。

- ・亜熱帯性果樹等の規格外品対策や加工品開発、選果場集出荷促進、環境保全型農業の推進など観光や特産品開発において新たな価値を創出する取り組みを推進する。
- ・これまで活用されていない奄美大島の魅力の「掘り起し・整理・活用」による観光ルート、着地型体験メニュー等の充実、スポーツ合宿・キャンプの聖地を目指した環境整備や誘致活動の推進、ゾーニングによる戦略的な観光地づくりなどによって、強力なイメージ発信を推進する。

#### ○共生・協働の推進、交流・連携の強化

- ・集落の活性化を図りながら、市町村・集落間の人々の往来・交流を図る。
- ・島外の人々との交流を拡大するため、奄美ファンを活用したイメージ発信や沖縄・屋久島など世界自然遺産をキーワードにした新たな交流軸の創出、友好都市との文化・芸能・スポーツ等による交流、野外ステージや観光農園等の交流施設整備に取り組む。
- ・NPO 法人や観光協会等とも連携し、魅力ある観光地の再建・強化や各種団体が開催するイベントコンベンション支援・協力を推進する。

#### ○市場の拡大（ヒト・モノ・カネ・情報）

- ・遊休農地の把握・解消や農業従事者の増大、市場調査に基づく新たな加工品開発等により農業振興を図る。
- ・定住促進における新たなターゲットの検討や学生スポーツ合宿の誘致、大都市圏における観光活性化イベントの開催、DVD やパンフレット等の広報媒体を含めた情報発信機能の充実と発信拠点の整備を推進する。

## ⑤奄美大島中長期観光戦略（一般社団法人あまみ大島観光物産連盟 2017 年策定）

### ア) 戦略策定の目的

観光客の訪問先として奄美大島が「1 訪問者にとって感動的で満足のいく場所として記憶に残り」、「2 島内の観光業者の観光収益が向上し」、「3 島内の地域住民が観光を通じた地域づくりができる」場所であることを実現するために策定する。

### イ) 計画期間

2017 年～2021 年（5 か年）

### ウ) 観光基本戦略

- 奄美大島 DMO の使命：生物多様性を持つ海と森を保全し、集落（シマ）の暮らし文化とともに後世に継承し、住民の幸福に寄与する。
- 観光戦略：世界自然遺産登録を視野に、奄美大島らしい観光商品と受け入れの仕組みづくりによって、年間を通して観光客を受け入れ、集落(シマ)の暮らしを豊かにする。

### エ) 施策の方向性

- 1) 世界自然遺産登録を踏まえた商品づくりによる収益確保
- 2) 集落での受け入れ、滞在プラン造成

- 3) 情報の整理と整備による島内移動、宿泊、食などの提供
- 4) ウェブサイトによる情報発信、情報収集
- 5) マーケティング

## オ) KPI

一般社団法人あまみ大島観光物産連盟が実施している交流人口動態調査でのアンケート集計結果から、次の指標を KPI として設定している。

指標	2021年
1人当たり観光消費額	55,000円
1滞在での宿泊数	3泊
満足度	68.0%

## カ) ターゲット層とアクションプラン

- ターゲット層 アクティブな20～30代
- アクションプラン

ゴール	KPI	課題	取組テーマ
島外の訪問者の喜ぶ顔を見るのが喜びである。	A. 満足度 2015 : 60% →2021 : 68%	重点施策 A-1. 世界自然遺産緊急対応	A-1-1. 世界遺産関連情報の収集・周知
			A-1-2. 世界遺産来島者への観光情報提供
			A-1-3. 世界遺産関連2次交通情報の整理・周知
			A-1-4. 世界遺産関連クレームの分析・改善要望
			A-1-5. 世界遺産対応人材の増強
			A-1-6. 世界遺産オリジナルツアーの造成
		A-2. 旅の予約の取りやすさ	A-2-1. 入込客数の平準化
			A-2-2. 宿泊施設の情報の充実
			A-2-3. 体験アクティビティの案内体制
			A-2-4. 地元開催イベント情報の開示
		A-3. 安心したステイ環境	A-3-1. ビーチでの観光客の安全管理
			A-3-2. パーキング地点の案内
			A-3-3. 船による早朝来島者への案内
			A-3-4. 観光案内所の配置整備
		A-4. 滞在時の地元食材の提供	A-4-1. 地元農家と飲食店の連携構築
			A-4-2. 地域団体商標制度の導入
		A-5. ウェブサイトによる効果的情報提供	A-5-1. ウェブマーケティングの結果検証
			A-5-2. 「あまみっけ。」記事月4本アップ
	A-5-3. 「のんびり奄美」最新情報更新		
	A-6. 観光サポート人材の充実	A-6-1. 次世代観光人材の育成	
		A-6-2. 観光地域づくり勉強会の実施	
	B. 滞在日数 2015 : 2.6泊 →2021 : 3.0泊	重点施策 B-1. おすすめ滞在メニューの提供	B-1-1. 滞在プランの充実
			B-1-2. 集落の観光受入れ体制整備
			B-1-3. まち歩きプログラムの開発
B-1-4. 雨の日プロジェクトの活動			
B-2. 観光客の動態把握	B-2-1. 交流人口動態調査の実施		
C. 観光消費額 2015 : 45,000円 →2021 : 55,000円	C-1. 大型客船受入体制の整備	C-1-1. 受入れ活動内容と組織整備	
	C-2. 観光後レポート受注の増加	C-2-1. 物流 & 商流の合理化	
	C-3. オリジナルグッズの開発	C-3-1. グッズ開発 (みっけなど)	

## 2. 瀬戸内町観光の現状と課題

### (1) 奄美大島の観光の現状

#### ① 観光に関する潮流

観光に関する潮流は、奄美群島（奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島及び与論島）の入込客数の推移とともに、次のとおり変遷している。

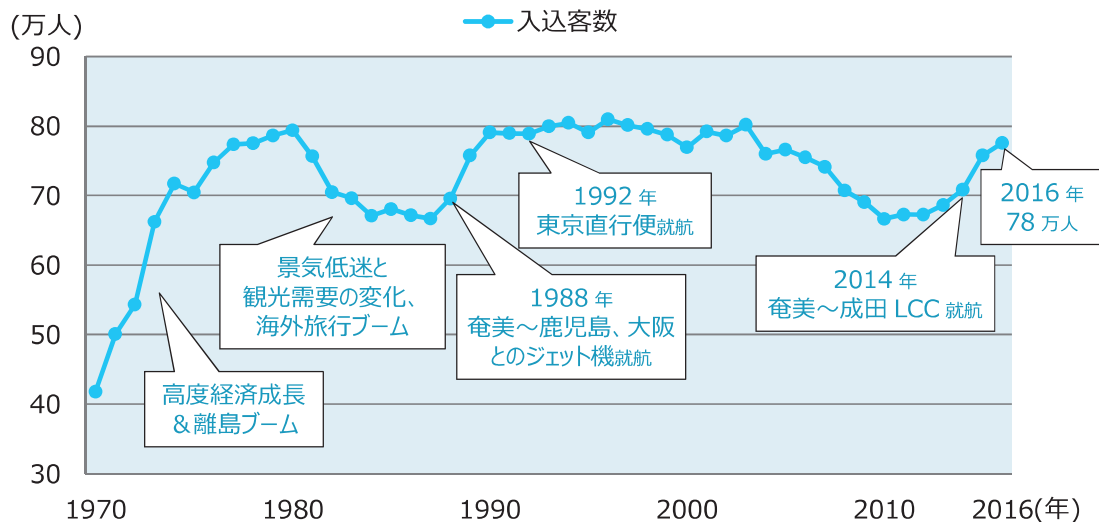
**高度経済成長期** 奄美群島は、1960年代後半からの高度経済成長と離島ブームによって脚光を浴び1974年に年間70万人台に達する。

**第1次オイルショック以降** 1973年第1次オイルショック以降の景気の低迷や国民の観光需要の変化、海外旅行ブームなどから1981年以降厳しい状況を迎え、1987年には66万人台まで落ち込んだ。

**ジェット機、東京直行便就航** 1988年7月の奄美空港ジェット化に伴う奄美大島～鹿児島・大阪間でのジェット機の就航や1992年12月から奄美大島～東京直行便の就航による時間短縮及び輸送力の増大が図られ群島外からの入域客が増加したが、1996年の57万6千人をピークに年々減少傾向

**LCC就航** 2014年7月の奄美大島～成田間のLCC就航、奄美群島振興交付金、奄美・沖縄連携交流促進事業を活用した航空、航路運賃の軽減により2016年は77万5千人となった。2017年3月からは奄美大島～関西空港間のLCCが就航している。

〔奄美群島への入込客数の推移〕



資料：鹿児島県大島支庁「奄美群島の概況」以下、同様。

## ② 奄美大島の入込客数の推移

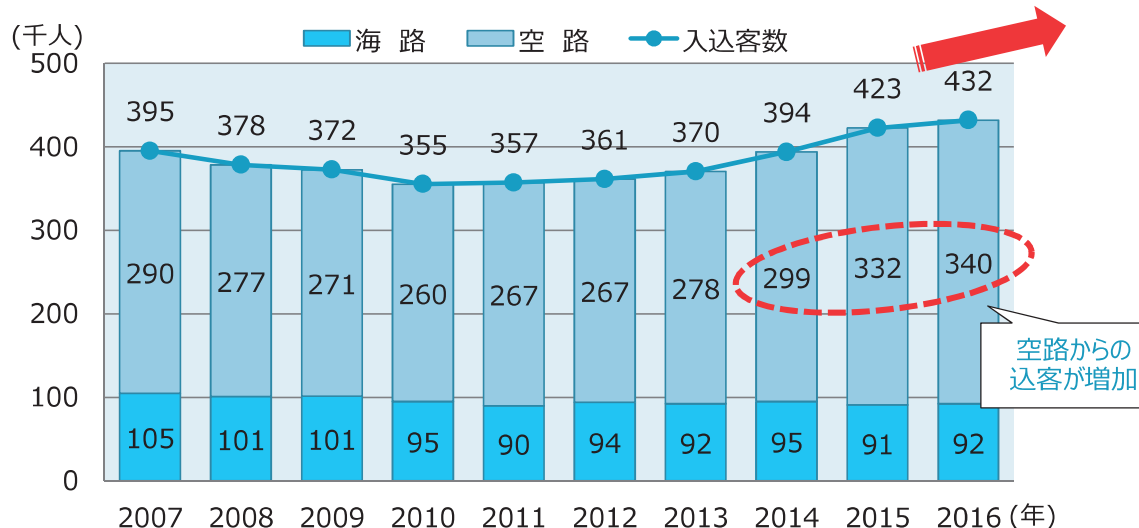
直近 10 年間の奄美大島の入込客数の推移をみると、海路での入込みは横ばいで推移しているものの、2014 年 7 月の奄美大島～成田間の LCC 就航以降、空路での入込みが増加している。

発地（経由地）別空路での入込客数をみると、鹿児島からの入込みが 25 万人前後で推移しているのに対し、関東からの入込みは 2012 年の 4 万 4,522 人から、2016 年には 10 万 2,282 人と、4 年間で 2.3 倍に急増している。

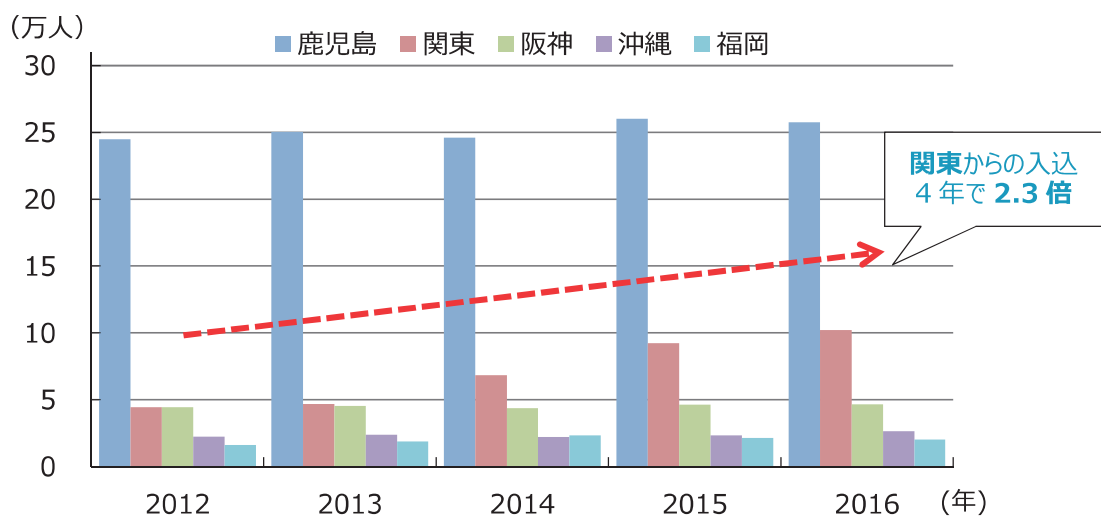
LCC のバニラ・エアは成田線に続き 2017 年から関西線を就航させ、奄美大島への輸送能力は大きく向上している。今後、2018 年 1 月からの NHK 大河ドラマ「西郷どん」放送や、世界自然遺産登録を見据え、観光客はさらに増加すると見込まれる。

世界自然遺産登録  
(予定)を控え今後  
更に増加する見通し

〔直近 10 年間の奄美大島への入込客数推移〕



〔発地（経由地）別空路での奄美大島への入込客数〕

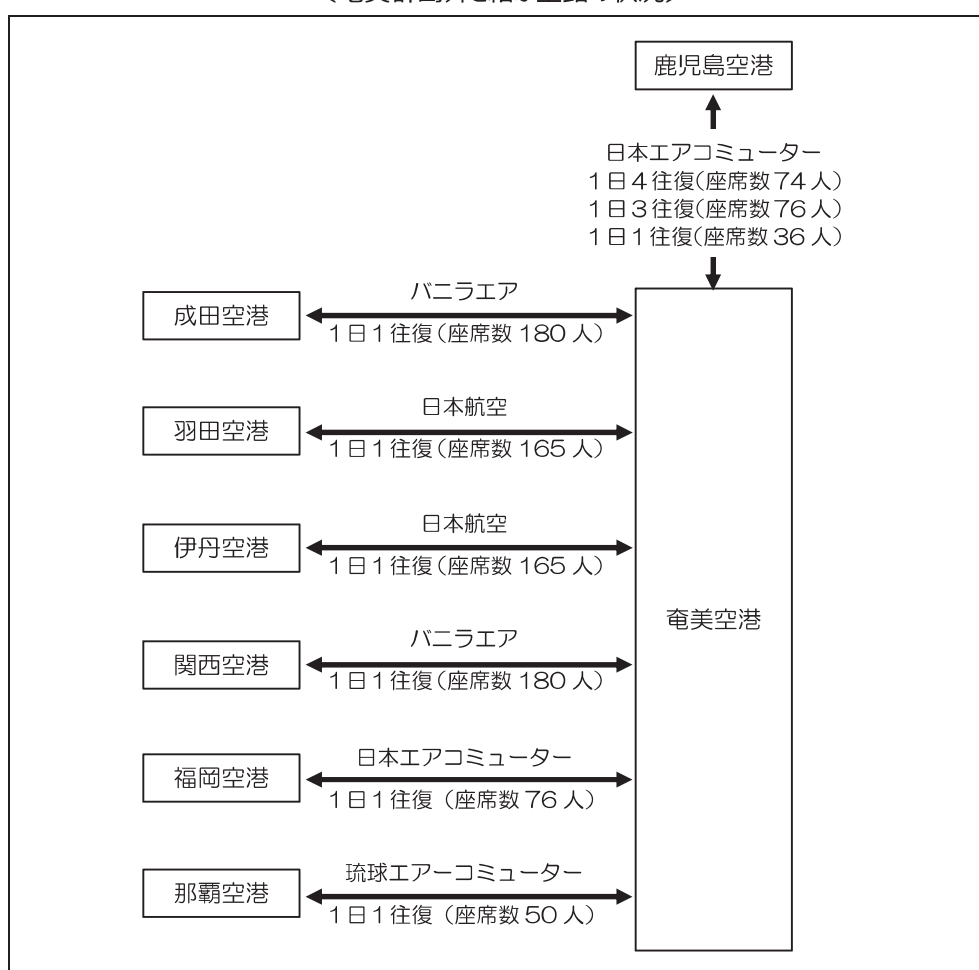


### ③ 奄美大島のアクセス

奄美群島外から奄美大島への空路によるアクセス状況をみると、日本エアコミューターが鹿児島ー奄美間に74人乗りを1日4往復、76人乗りを1日3往復、36人乗りを1日1往復、福岡ー奄美間に50人乗りを1日1往復就航させている。

また、バニラエアが東京（成田）ー奄美間に180人乗り、日本航空が東京（羽田）ー奄美間と大阪（伊丹）ー奄美間に165人乗り、琉球エアコミューターが沖縄（那覇）ー奄美間に50人乗りをそれぞれ1日1往復、2017年3月からはバニラエアが新たに大阪（関西）ー奄美間に180人乗りを1日1往復就航させており、1日の最大輸送量は1,376人となっている。

〔奄美群島外と結ぶ空路の状況〕



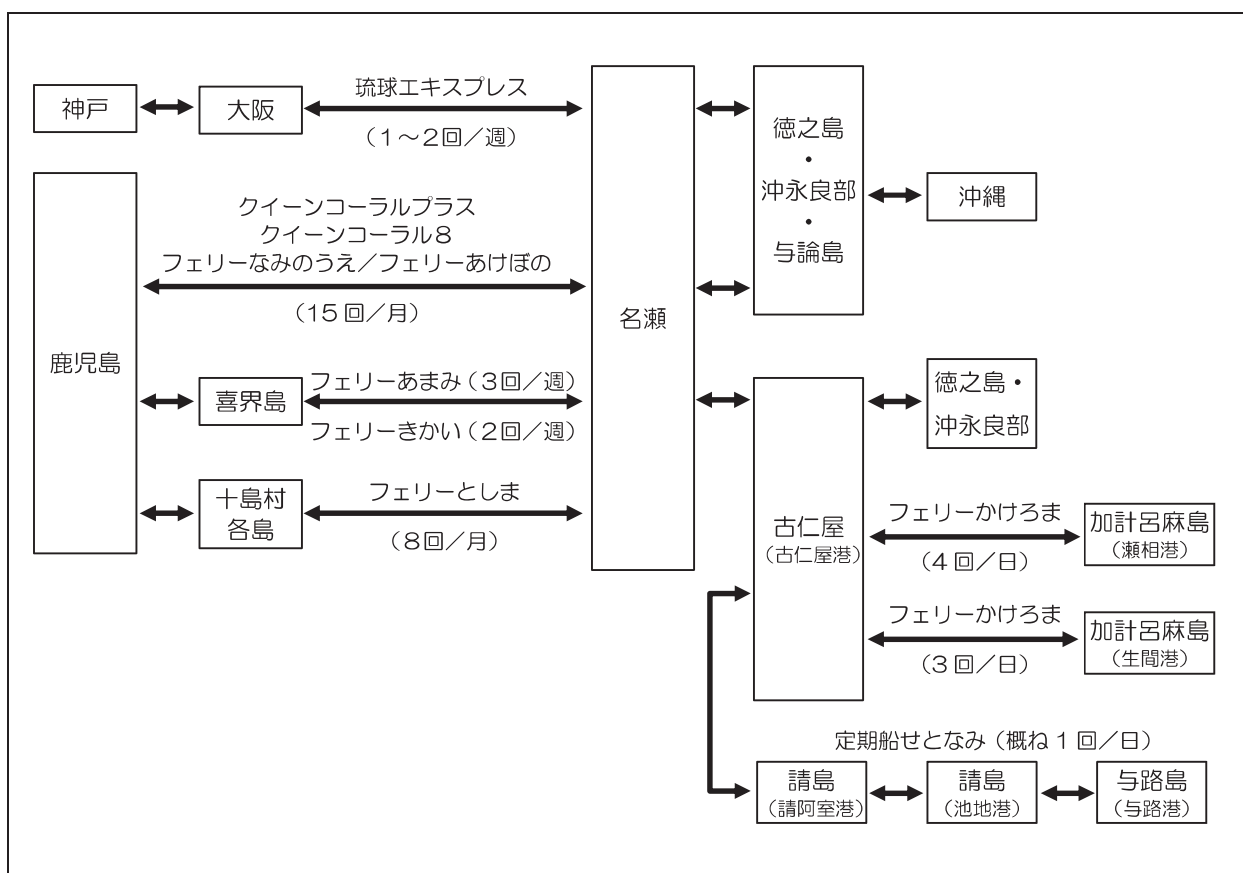
注：2017年9月30日現在

資料：鹿児島県大島支庁『平成28年度 奄美群島の概況』及び航空会社のWebサイト

海路によるアクセス状況を見ると、琉球エクスプレスが神戸・大阪－奄美（名瀬港）－徳之島・沖永良部・与論・沖縄間、クイーンコーラルプラスとクイーンコーラル8、フェリーなみのうえ、フェリーあけぼのが鹿児島（新港）－奄美（名瀬港）－徳之島・沖永良部・与論・沖縄間、フェリーあまみとフェリーきかいが鹿児島（本港区 北埠頭）・喜界島－奄美（名瀬港－古仁屋港）－徳之島/沖永良部島、フェリーとしまが鹿児島（本港区 南埠頭）・十島村－奄美（名瀬港）をそれぞれ運航させており、2018年3月からはフェリーなみのうえが4日に1回の上り便で屋久島（宮之浦港）に寄港する試験運航が始まっている。

町内ではフェリーかけろまが古仁屋港－加計呂麻島（生間港・瀬相港）、定期船せとなみが古仁屋港－請島（請阿室港、池地港）、与路島（与路港）で運航されている。

〔奄美群島内外と結ぶ海路の状況〕



資料：鹿児島県大島支庁『平成28年度 奄美群島の概況』

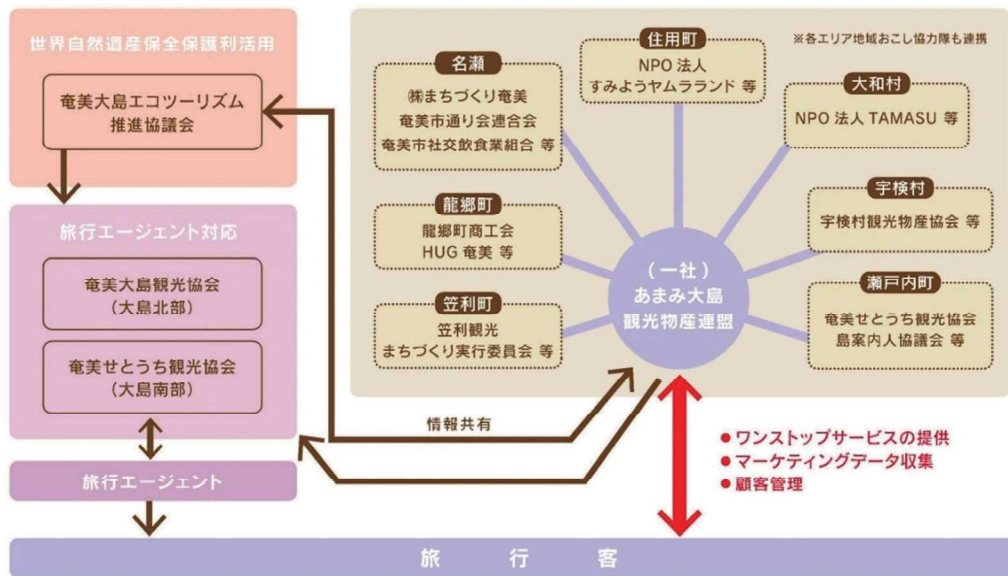
#### ④ 奄美大島の観光受入態勢

2016年12月に発足した一般社団法人あまみ大島観光物産連盟は、島内1市2町2村、一般会員約140団体で構成され、奄美大島DMOとして、奄美大島らしい観光商品と受け入れの仕組みづくりに取り組んでいる。

〔あまみ大島観光物産連盟を中心とした奄美大島内の観光関連組織関係図〕

##### 5-① 重点施策実施に関わる組織関係図

一般社団法人あまみ大島観光物産連盟にDMO機能を持たせ、図に示した各団体・組織と連携を図り、重点施策を実施していきます。



資料：一般社団法人あまみ大島観光物産連盟「奄美大島中長期観光戦略 2017-2021」

## (2) 瀬戸内町の観光の現状

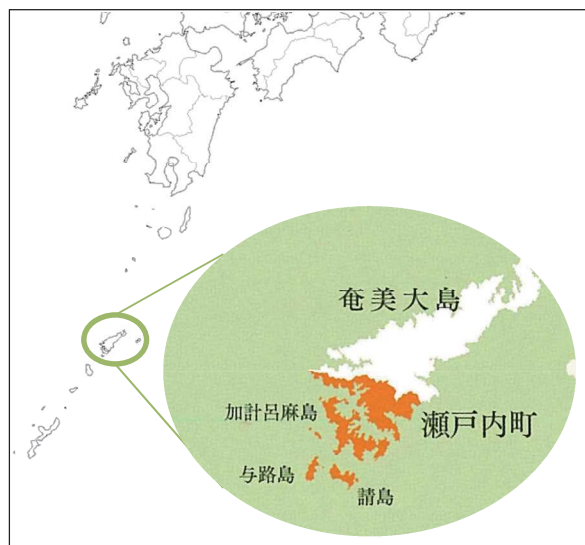
### ① 瀬戸内町の観光資源

本町は、奄美大島南部に位置し、大島海峡を挟んで加計呂麻島、請島、与路島のほか、多くの無人島を持ち、変化に富んだ美しいリアス海岸と、竜宮城のような海中景観、いにしへの風情を彷彿とさせる集落景観や伝統芸能は、奥深い魅力に富んでいる。

#### ア) 観光資源

本町の観光資源、宿泊施設、観光施設等は次のとおりである。

〔瀬戸内町位置図〕



〔瀬戸内町の観光資源〕

島名	名称	集落	カテゴリ	島名	名称	集落	カテゴリ
奄美大島 (本島分)	曾津高崎灯台	西古見	観光スポット	加計呂麻島	実久海岸	実久	自然
	旧陸軍の観測所跡	西古見	文化・跡地		実久三次郎神社	実久	文化・跡地
	ナハンマ公園から見た三連立神	西古見	観光スポット		新緑に包まれた大島海峡	実久	自然
	三連立神とデイゴ	西古見	自然		夕日と大島海峡	実久・芝	自然
	西古見サンセットパーク	西古見	観光スポット		昇 曙夢の胸像	芝	文化・跡地
	サキシマスオウノキ	油井	自然		カツオ祭り	芝	文化・跡地
	油井岳	油井	自然		女相撲甚句	芝	文化・跡地
	旧陸軍弾薬庫跡	手安	文化・跡地		南洋真珠の養殖場	三浦	観光体験
	グラスボートりゅうぐう	古仁屋	観光体験		特攻艇「震洋」レプリカ	呑之浦	文化・跡地
	半潜水船せと	古仁屋	観光体験		渡連海岸	渡連	自然
	ノロ扇	芦瀬	文化・跡地		安脚場戦跡	安脚場	文化・跡地
	二又岩(タマタディル)	節子	自然		徳浜海岸	徳浜	自然
	藍染体験	嘉徳	観光体験		製糖工場	佐知克	観光体験
	嘉徳なべ加那の墓	嘉徳	文化・跡地		デイゴ並木	諸鈍	自然
	嘉鉄湾	嘉鉄	自然		「男はつらいよ」記念プレート	諸鈍	観光スポット
	ハートが見える風景	嘉鉄	自然		巨大ガジュマル	於斉	自然
	ホノホシ海岸の祠(ほこら)	蘇刈	自然		花富岬	花富	自然
	ホノホシ海岸	蘇刈	自然		西阿室教会	西阿室	文化・跡地
	ヤドリ浜	蘇刈	自然		テンテン踊り	西阿室	文化・跡地
	油井の豊年踊り	油井	文化・跡地		西阿室の夕日	西阿室	自然
与路島	「島の宝100景」認定 サンゴの石垣	与路	文化・跡地	嘉入の滝	嘉入	自然	
	サガリバナ	与路	自然	アシャゲ	阿多地	文化・跡地	
	三丁落鼻	与路	自然	美しい生垣	須子茂	文化・跡地	
	ハミヤ島	与路	自然	諸鈍シバヤ	諸鈍	文化・跡地	
請島	クンマ海岸	池地	自然	加計呂麻島展示・体験交流館	諸鈍	観光体験	
	旧名家のサンゴの石垣	請阿室	文化・跡地				
	ミヨチヨン岳	池地	自然				
	ウケユリ	池地	自然				
	木山島	請阿室	自然				

資料④ 本町ガイドブック 以下、同様

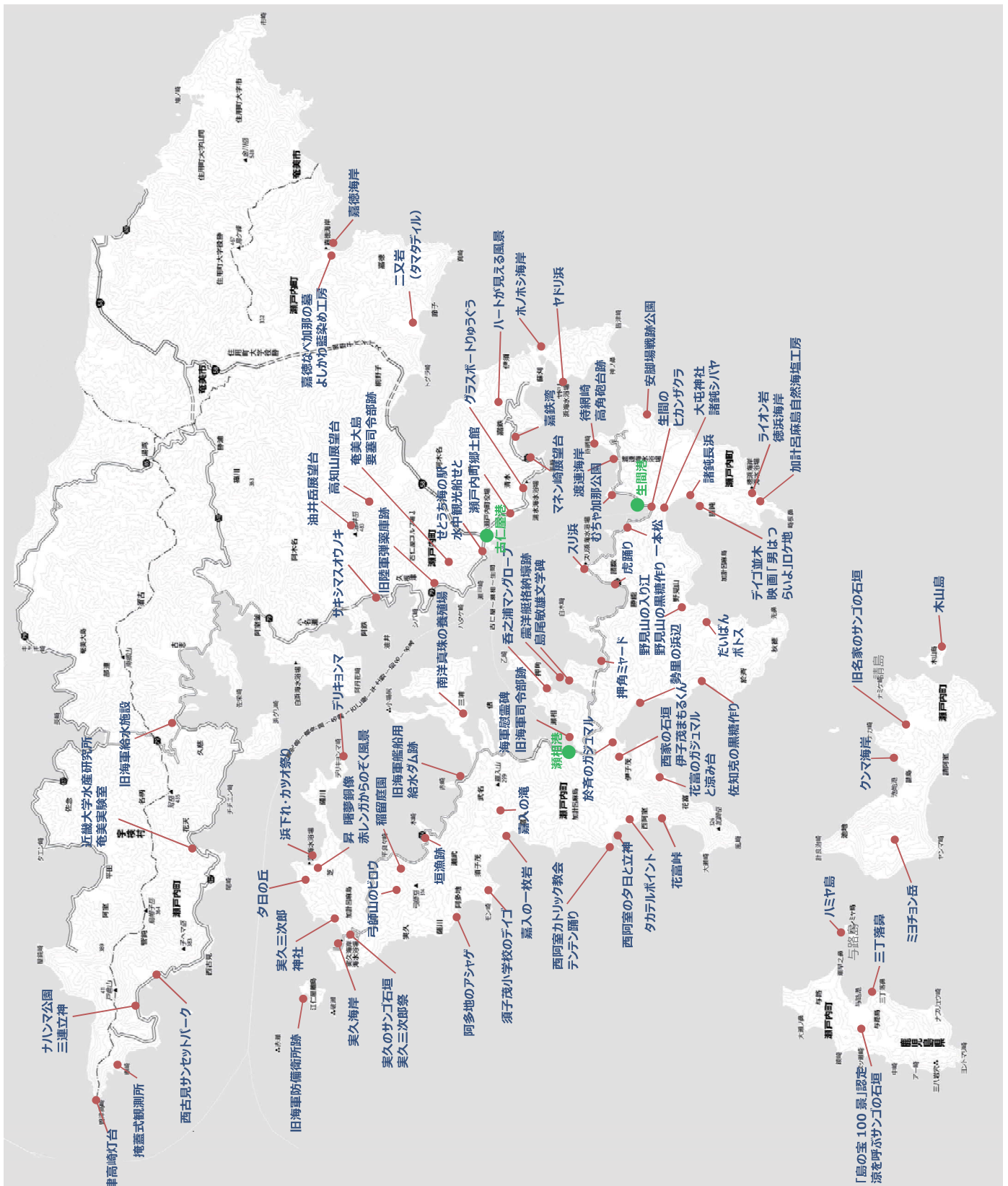
〔瀬戸内町の宿泊施設〕

島名	施設名	島名	施設名	
奄美大島本島	THE SCENE	加計呂麻島	来々夏ハウス	
	ビジネスホテルブラザセとうち		HIRO ISLAND STYLE	
	サンフラワーシティホテル		和の夢	
	ライブストイン奄美		ホライゾンクラブ	
	昭和荘		ダイビング&ペンションRIKI	
	たんぼぼやあ		I NAハウス	
	民宿「みさき」		マリンブル-カケロマ	
	漁師宿「ふじ」		ハウスinカケロマ	
	民宿「海」		ゲストハウス カムディ	
	GUEST HOUSEライズカレント		海宿5マイル	
	民宿「やどり」		民宿「南龍」	
	民宿「ママ」		すずめのお宿	
	お宿ねぶす		紫微臺駕	
	海人スタイル奄美		レンタルハウスマリンビレッジ	
	民宿「ユートピア」		カケロマロマエ	
	くつろぎの宿「おかげさま」		請島	民宿「とやま」
	ゼログラヴィティ清水ヴィラ		島	民宿「みなみ」
	ペンション ハーラ	与	民宿「津留旅館」	
	民宿「よーりよーり」	路	民宿「マンディカシャヴェラ」	
	ダイバー-民宿「おれんち」	島	民宿「みどり」	

〔瀬戸内町の観光施設等〕

カテゴリ	施設名	集落・地域	内容
観光施設・史跡	瀬戸内町図書館・郷土館	古仁屋	図書館・民俗資料館
	奄美戦史模型資料館	古仁屋	軍艦などの模型展示
	加計呂麻島展示・体験交流館	諸鈍	展示交流施設休憩所
	島尾敏雄文学碑	呑之浦	文学碑・特攻艇格納壕
	安脚場戦跡公園	安脚場	戦跡遺跡・展望台
	映画「男はつらいよ」ロケ記念碑	諸鈍ほか	ロケ記念碑
	カケロマリゾート マリンビューワー セト	古仁屋	半潜水艇(定員56人)
	ヤマハタマリンサービスあまん グラスポート りゅうぐう	古仁屋	(定員38人/予約運行)
	清水運動公園	清水	総合体育館・陸上競技場・テニスコート等
	産業見学・体験	瀬戸内町大島袖協同組合 大島袖技能者養成所	古仁屋
農水産物販売所	奄美サウスシー&マベパール(奄美パール)	古仁屋	真珠展示販売・真珠養殖場
	加計呂麻島の塩	須子茂	塩づくり見学
	西田製糖工場	佐知克	黒糖・きび酢作り見学
観光ガイド	せとうち海の駅	古仁屋	総合施設
	加計呂麻島のいっちゃむん市場	瀬相	農産物等販売所
	団塊世代の島案内人		自然ガイド・夜観察
海上観光	スローガイド奄美	古仁屋	森自然ガイド・カヌー
	チルチルカフェ	阿木名	川遊び・海遊び・溪流・BBQ
	カケロマドットコム	諸鈍	島内ガイド・文化・自然
	瀬戸内貸切船協同組合(瀬戸内海上タクシー)	古仁屋	瀬渡し船
	古仁屋貸切船組合(古仁屋海上タクシー)	古仁屋	瀬渡し船
交通	奄美海上タクシー	古仁屋	船釣り・磯釣り・瀬渡し船
	瀬戸内タクシー南部交通	古仁屋	貸切バス
	加計呂麻バス	瀬相	乗合バス・貸切バス
	瀬戸内町営船「フェリー-かけろま」		町営船
	瀬戸内町営船「せとなみ」		町営船
	瀬戸内貸切船協同組合(瀬戸内海上タクシー)	古仁屋	瀬渡し船
	古仁屋貸切船組合(古仁屋海上タクシー)	古仁屋	瀬渡し船
	奄美海上タクシー	古仁屋	瀬渡し船
	ASAT(アサット)レンタカー		レンタカー
	レンタカー-なかむら	古仁屋	レンタカー
	加計呂麻レンタカー	瀬相	レンタカー
	イキンマレンタカー	生間	レンタカー
	田原モーターズ	古仁屋	レンタルバイク・自転車
	昭和荘	古仁屋	レンタルバイク・自転車
	加計呂麻島あまくまサイクル	加計呂麻島	レンタルサイクル

(瀬戸内町の観光資源マップ)



## イ) 行事・イベント

奄美シーカヤックマラソン in 加計呂麻大会や加計呂麻島ハーフマラソン等、本町の主な行事・イベントは次のとおりである。

〔本町の主な行事・イベント〕

月	行事・イベント	月	行事・イベント
1月		9月	アラセツ・コスムケ・シバサシ
2月	旧正月		各集落豊年祭（旧暦8月15日前後）
3月			権現祭
4月	加計呂麻バザー		油井豊年踊り（鹿児島県指定無形民俗文化財）
	サンガツサンチ		勝能の虎踊り
5月	請阿室ウォークラリー		西阿室テンテン踊り
	与路島舟こぎ大会		網野子アンドンデー
	芝の浜下れ（カツオ祭り）	10月	クガツクンチ
6月	ゴガツゴンチ		実久三次郎祭り
	請阿室舟こぎ大会		諸鈍シバヤ（国指定重要無形民俗文化財）
7月	奄美シーカヤックマラソン in 加計呂麻大会	11月	加計呂麻島ハーフマラソン
	マリンフェスタ in 加計呂麻	12月	
8月	みなと祭り（八月踊り）		
	旧七夕		
	旧盆		

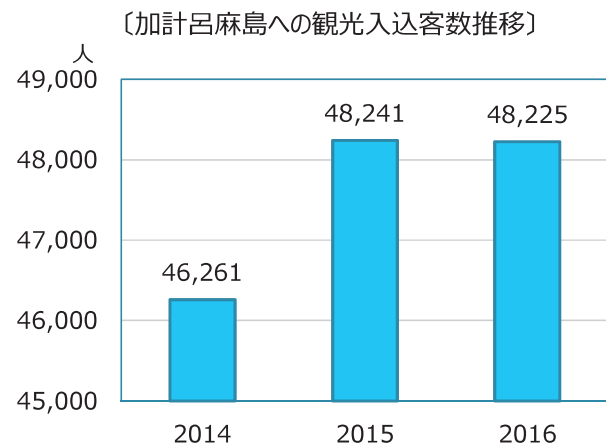
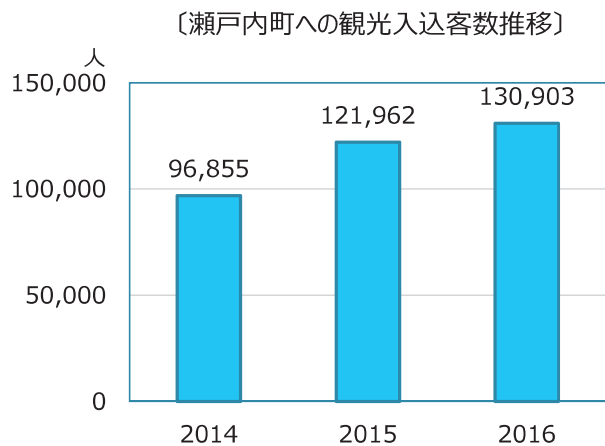


奄美シーカヤックマラソン in 加計呂麻大会

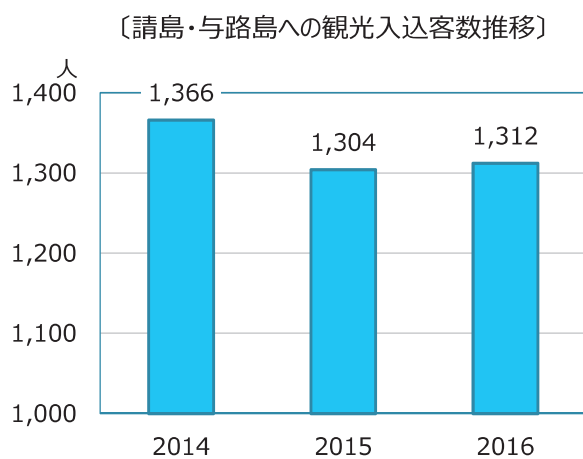
## ② 瀬戸内町の観光入込客数の推移

### ア) 全体

直近3年間の本町の観光入込客数の推移をみると、増加傾向にあり、2016年は13万903人となっている。加計呂麻島は、2015年に約2,000人増加し、48,000人台、請島・与路島は1,300人台で推移している。

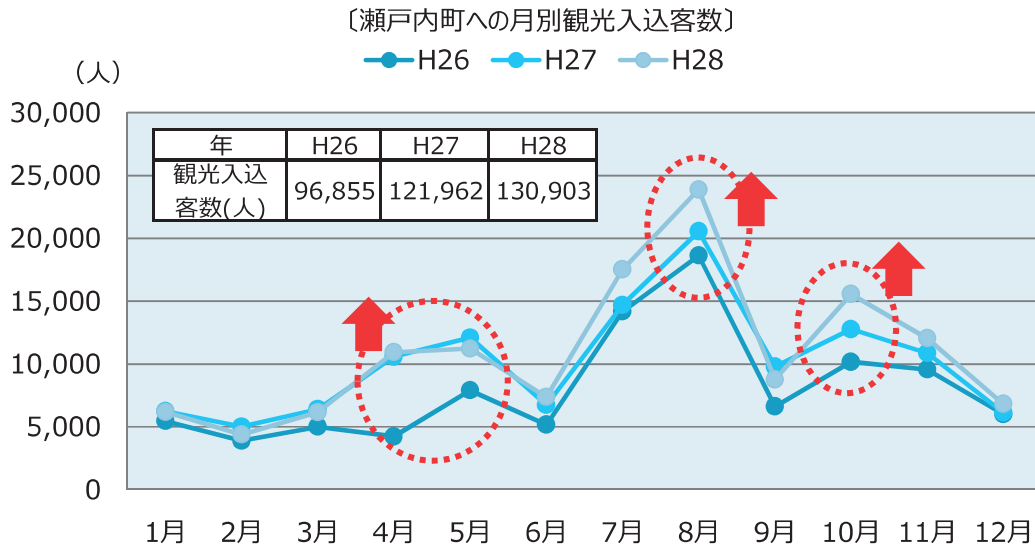


資料：本町商工観光課 以下、同様。



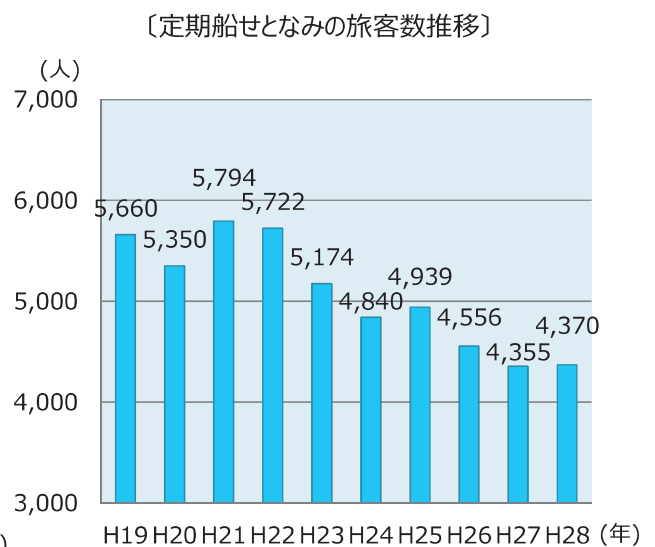
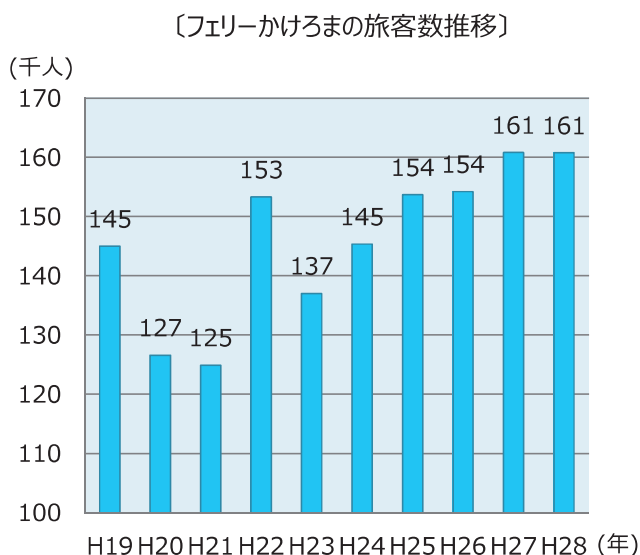
## イ) 月別観光入込客数

上記の直近3年間の観光入込客数推移を月別にみると、3か年とも8月が最も多いが、4~5月、8月、10月で増加している。



## ウ) フェリー・定期船の旅客数

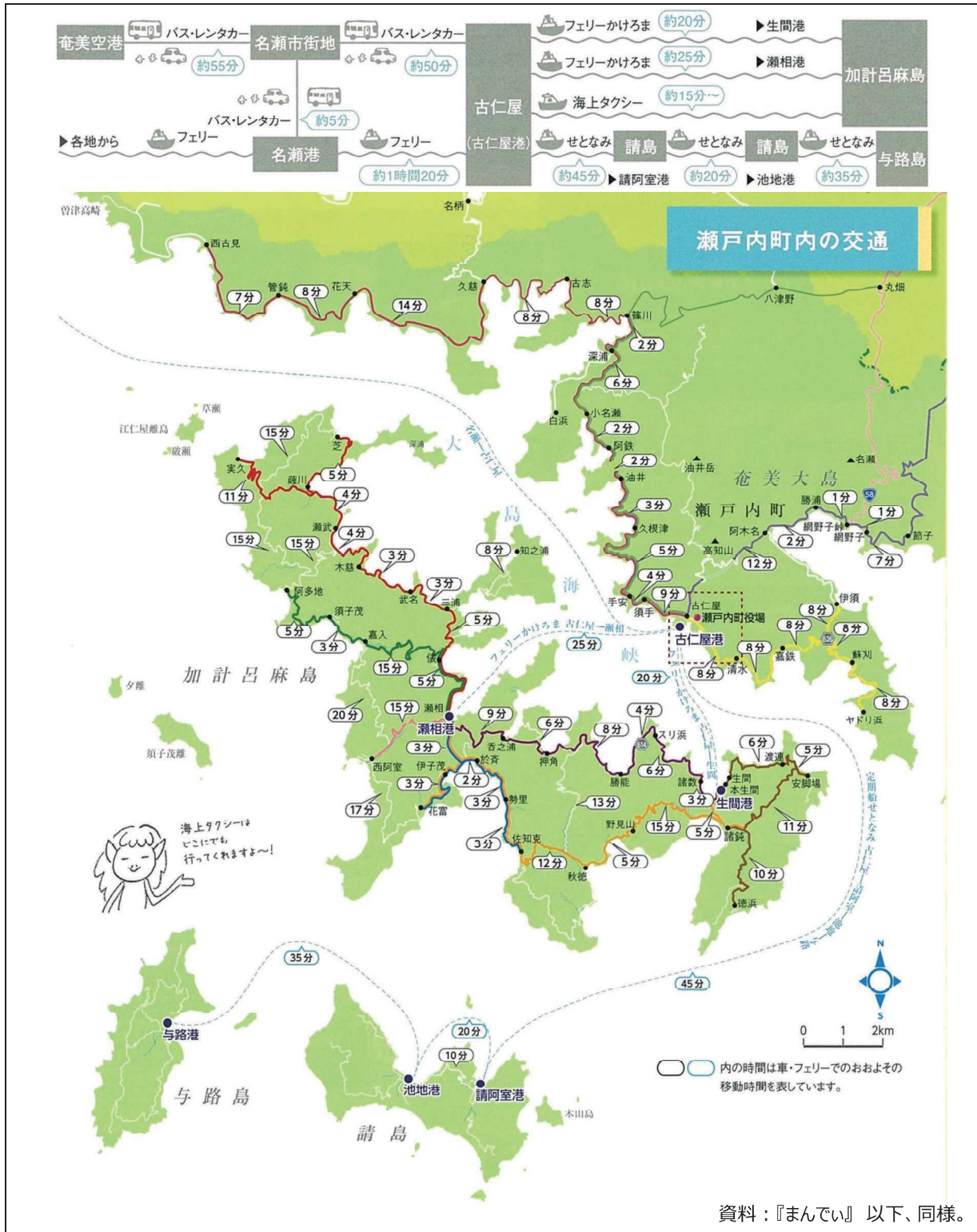
古仁屋港と加計呂麻島の瀬相港・生間港を結ぶフェリーかけろまの旅客数は、平成22年の15万人から平成23年は13万人に落ち込んだものの平成27年からは16万人台で推移している。一方、古仁屋港と請島・与路島を結ぶ定期船せとなみの旅客数は減少傾向にある。



### ③ 瀬戸内町のアクセス

奄美空港から本町まではバス・レンタカーで約 105 分要する。また、町内各島へのアクセスをみると、古仁屋港から加計呂麻島、請島・与路島へはそれぞれフェリーかけろまや定期船せとなみ、また海上タクシーが運航しており、陸地は奄美大島側は南部交通、加計呂麻島は加計呂麻バスが運行している。

〔瀬戸内町のアクセス〕



〔瀬戸内町のアクセス（続き）〕

フェリーかけろま 

瀬相行き				生間行き			
料金	360円(片道)			料金	360円(片道)		
古仁屋発	瀬相着	瀬相発	古仁屋着	古仁屋発	生間着	生間発	古仁屋着
7:00	7:25	7:35	8:00	8:10	8:30	8:40	9:00
10:20	10:45	11:00	11:25	11:40	12:00	12:10	12:30
14:00	14:25	14:40	15:05	16:00	16:20	16:30	16:50
17:30	17:55	18:05	18:30				
【フェリーかけろま】	古仁屋待合所			☎0997-72-3771			
	瀬相待合所			☎0997-75-0430			
	生間待合所			☎0997-76-0619			

町営定期船せとなみ 

	古仁屋港	請阿室港	池地港	与路港
料金		930円(片道)	930円(片道)	1,030円(片道)
月	7:00			7:50
	9:40	8:45	8:25	8:00
	14:30	15:15	15:35	16:10
火～金	8:40	7:45	7:25	7:00
	14:30	15:15	15:35	16:10
土	8:40	7:45	7:25	7:00
	14:30	15:15	15:35	16:10
	18:00	17:05	16:45	16:20
日	10:00	10:45	11:05	11:40
	16:40	15:45	15:25	15:00

【町営定期船せとなみ】 瀬戸内町商工観光課（船舶係） ☎0997-72-4560

海上タクシー 

会社名	お問い合わせ先	運航
瀬戸内貸切船協同組合	☎0997-72-0377	(町内運航)
古仁屋貸切船組合	☎0997-72-0332	(町内運航)
奄美海上タクシー	☎0997-72-4760	(町内運航)

チャーターで、(例)古仁屋～瀬相 4,000円/古仁屋～生間 3,000円

フェリー 

会社名	お問い合わせ先	運航
仲村運輸	☎0997-72-1151	(鹿児島・喜界・名瀬・徳之島・沖永良部島 運航)

※掲載されている情報は、2016年3月現在のものです。

また、フェリー・定期船・バスは、時期により、便数・時間の変更があります。  
最新の情報は、各交通機関へお問い合わせください。

加計呂麻バス 

経路	
①瀬相～実久区間	瀬相～俵～三浦～武名～木慈～瀬武～薩川～芝～実久
②瀬相～生間区間(秋徳経由)	瀬相～於音～伊子茂～花富～勢里～佐知克～秋徳～野見山～諸鈍～生間
③瀬相～佐知克	瀬相～於音～伊子茂～花富～勢里～佐知克
④瀬相～生間(押角経由)	瀬相～呑之浦～押角～勝能～スリ浜～諸数～生間 ※デマンド(押角)始発
⑤瀬相～阿多地	瀬相～俵～嘉入～須子茂～阿多地
⑥生間～徳浜	生間～本生間～渡津～安脚場～諸鈍～徳浜 ※デマンド(徳浜)
⑦瀬相～西阿室	

【加計呂麻バス有限会社】 ☎0997-75-0447

※デマンドとは予約制バスのことです。押角(始発のみ)、徳浜から乗車する場合は、予約が必要です。

瀬戸内町内(奄美大島側)バス 

経路	
④古仁屋市街地	⑩古仁屋～節子～嘉徳
⑧古仁屋～篠川～新村	⑤古仁屋～蘇刈～ヤドリ浜
③古仁屋～篠川～西古見	

【瀬戸内海浜バス】 ☎0997-72-1904

瀬戸内町内レンタカー 

会社名	お問い合わせ先
イキンマレンタカー(加計呂麻島 生間)	☎0997-76-0202
加計呂麻レンタカー(加計呂麻島 瀬相)	☎0997-75-0427
レンタカーなかむら(古仁屋 松江)	☎0997-72-4891
ライブストレンタカー(古仁屋 松江)	☎0997-72-0815

※台数に限りがありますので、事前予約が必要です。

グラスボード観光船 

	半潜水式水中観光船「せと」	海底観光船「りゅうぐう」
内容	運行時間: 9:30/10:30/11:30/ 13:30/14:30/15:30/16:30 所要時間: 約40分～	グラスボード遊覧 サンゴコース: 予約制(5名から)
料金	大人: 2,500円 小人: 1,250円	大人: 2,000円 小人: 1,000円
連絡先	(株)カケロマリゾート ☎0997-72-1326	ヤマハタマリンサービス あまん ☎0997-72-4584

### (3) 来訪者の現状とニーズ（アンケート調査）

本町への来訪者の観光実態やニーズを把握するため、せとうち海の駅、加計呂麻島展示・体験交流館、フェリーかけろま船内、及び町内の主要な宿泊施設でアンケート調査を実施した。

#### ① アンケート調査概要

来訪者・宿泊客向けアンケート調査概要は以下のとおり。

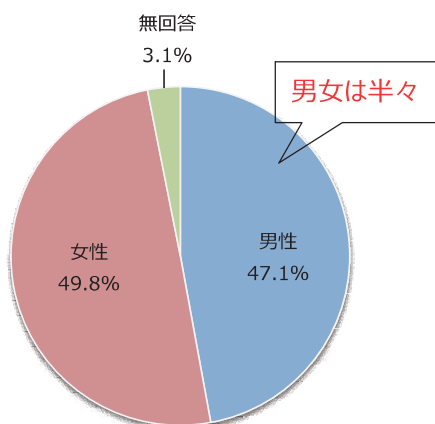
〔来訪者・宿泊客向けアンケート調査概要〕

調査場所と対象者	①来訪者 せとうち海の駅、加計呂麻島展示・体験交流館、フェリーかけろま船内 ②宿泊者 大島側 7、加計呂麻 6、請島 1、与路島 1 計 15 の町内宿泊施設
調査方法	①海の駅内（観光案内所窓口、フェリー乗船申込窓口）、加計呂麻島展示・体験交流館窓口、フェリーかけろま船内に留置き、回収用ボックス設置 ②チェックイン時に配布、チェックアウト時に回収
調査日	平成 29 年 11 月～12 月
調査項目	旅行者の属性、旅行内容、消費額等
有効回答数	①来訪者 163 件、②宿泊者 255 件 計 418 件

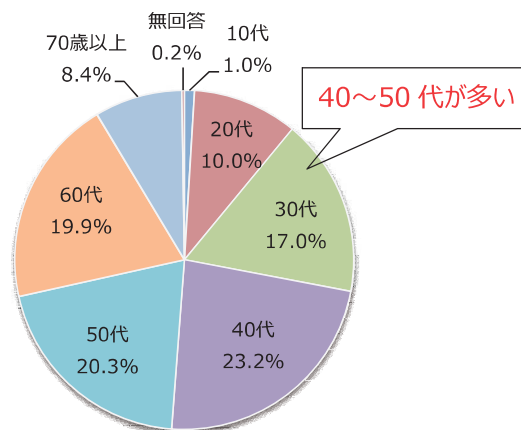
#### ② 調査結果

##### ア) 回答者属性

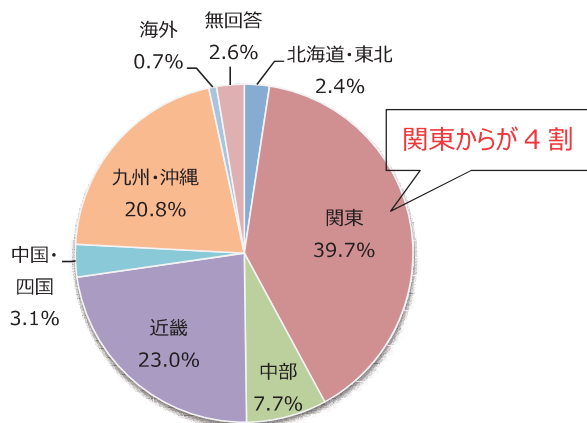
属性 1－性別（N=418）



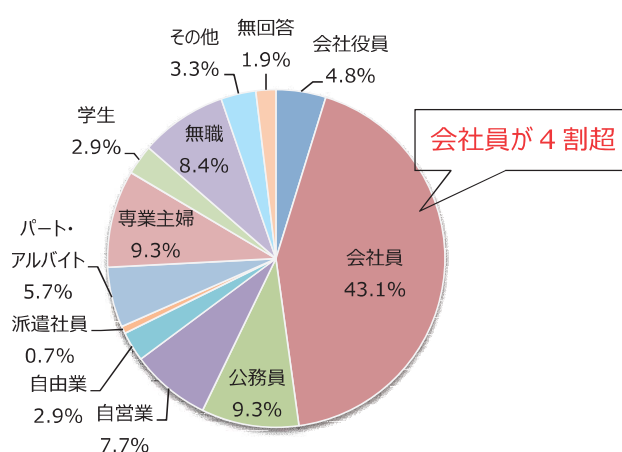
属性 2－年代（N=418）



属性 3－居住地（N=418）



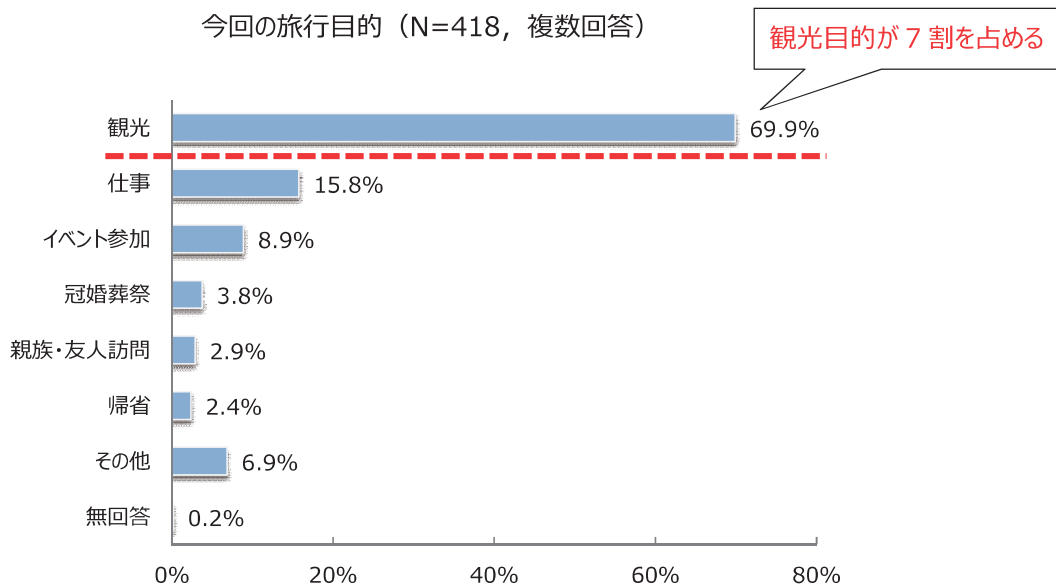
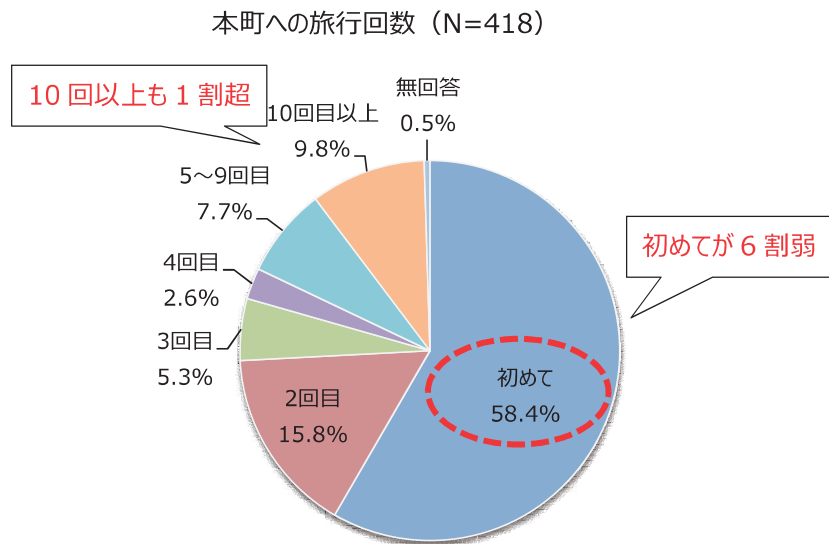
属性 4－職業（N=418）



## イ) 本町への旅行回数と今回の旅行目的

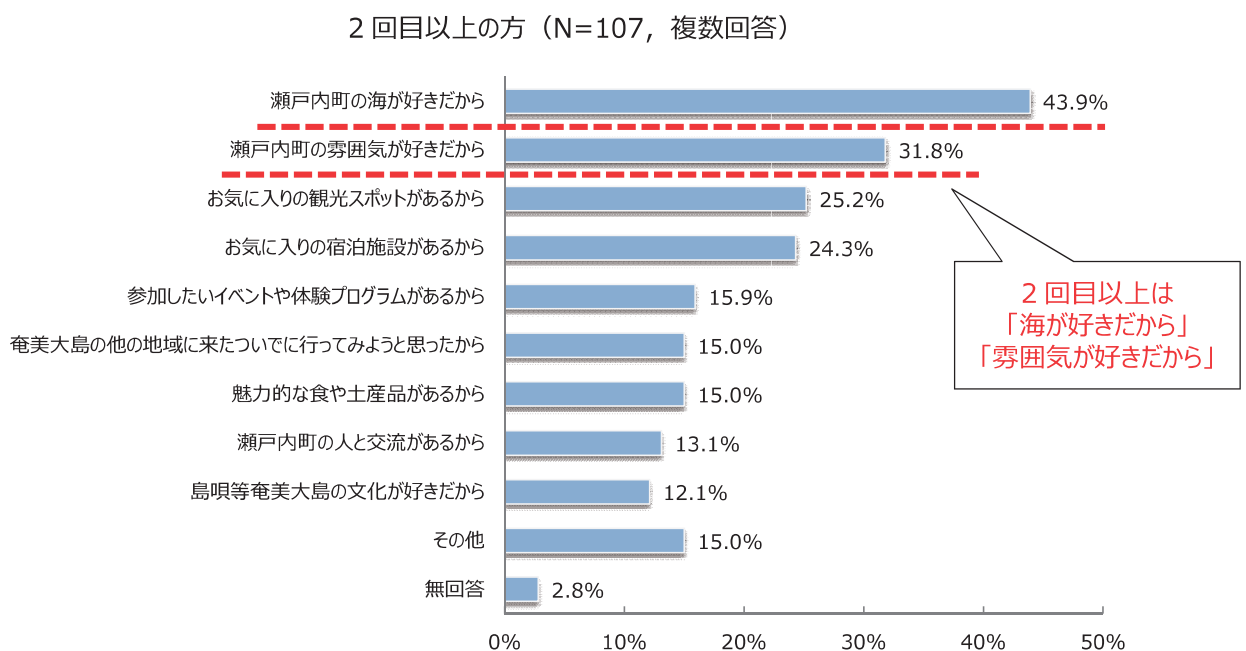
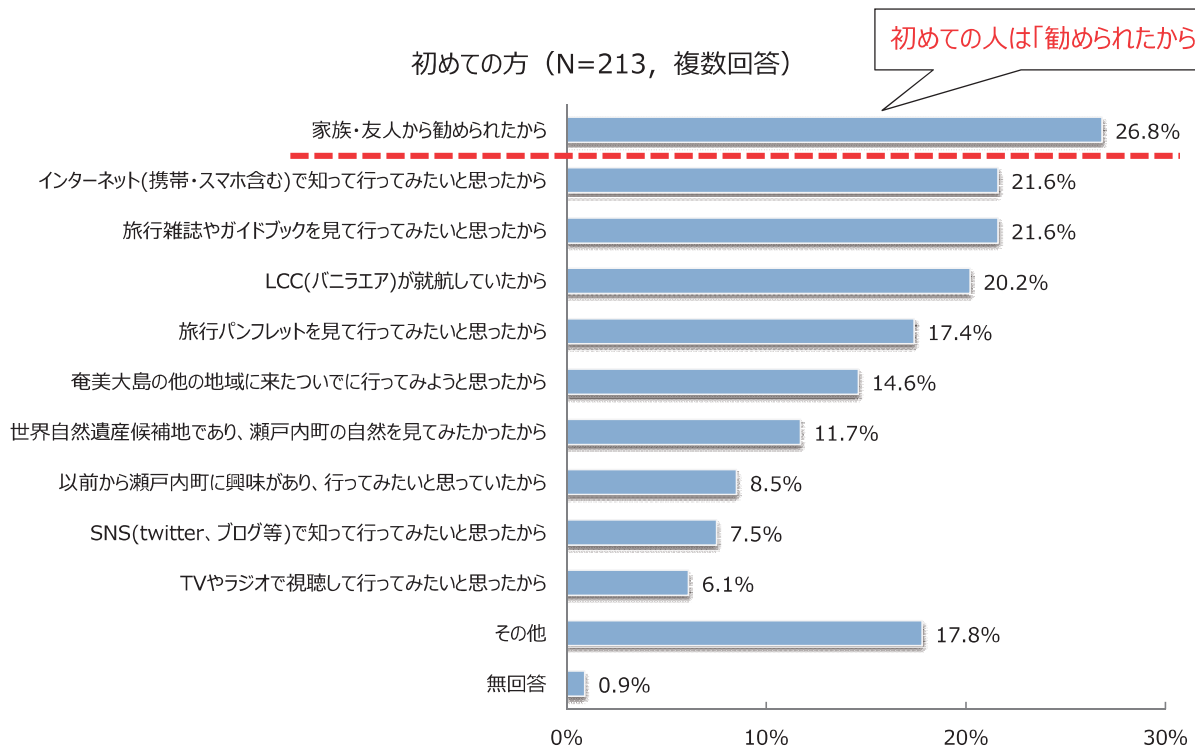
本町への旅行回数については、「初めて」が58.4%で最も多く、次いで「2回目」(15.8%)、「10回以上」(9.8%)となっている。

今回の旅行目的については、「観光」が69.9%で最も多く、次いで「仕事」(15.8%)、「イベント参加」(8.9%)などとなっている。



## ウ) 本町を選んだ理由（初めての方、2回目以上の方）

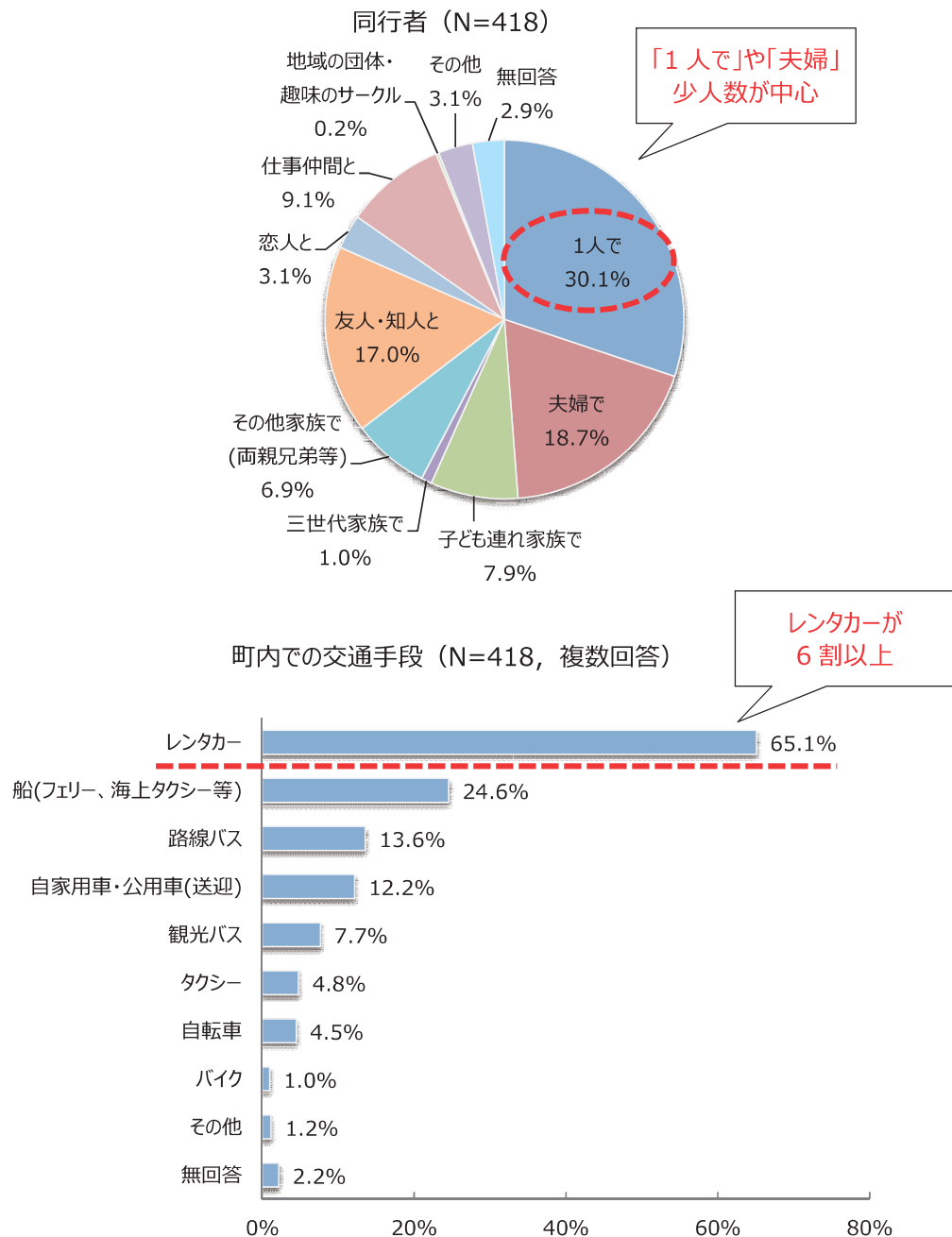
観光またはイベント参加目的で訪問した人が本町を選んだ理由（きっかけ）について、「初めて」訪問した人では、「家族・友人から勧められたから」が26.8%で最も多く、次いで「インターネット（携帯・スマホ含む）で知って行ってみたいと思ったから」と「旅行雑誌やガイドブックを見て行ってみたいと思ったから」（21.6%）などとなっている。また、2回目以上の人では、「瀬戸内町の海が好きだから」が43.9%で最も多く、次いで「瀬戸内町の雰囲気が好きだから」（31.8%）、「お気に入りの観光スポットがあるから」（25.2%）などとなっている。



## 工) 同行者と町内での交通手段

同行者については、「1人で」が30.1%で最も多く、次いで「夫婦で」(18.7%)、「友人・知人と」(17.0%)となっている。

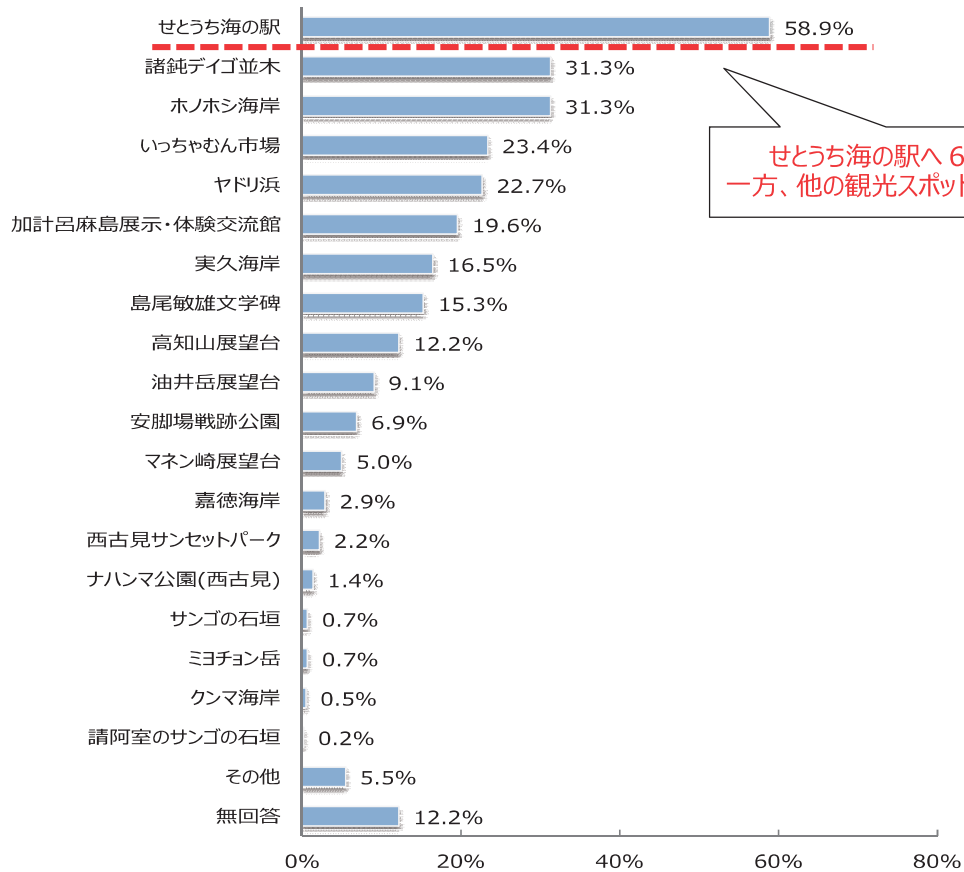
町内での交通手段としては、「レンタカー」が65.1%で最も多く、次いで「船(フェリー、海上タクシー等)」(24.6%)、「路線バス」(13.6%)などとなっている。



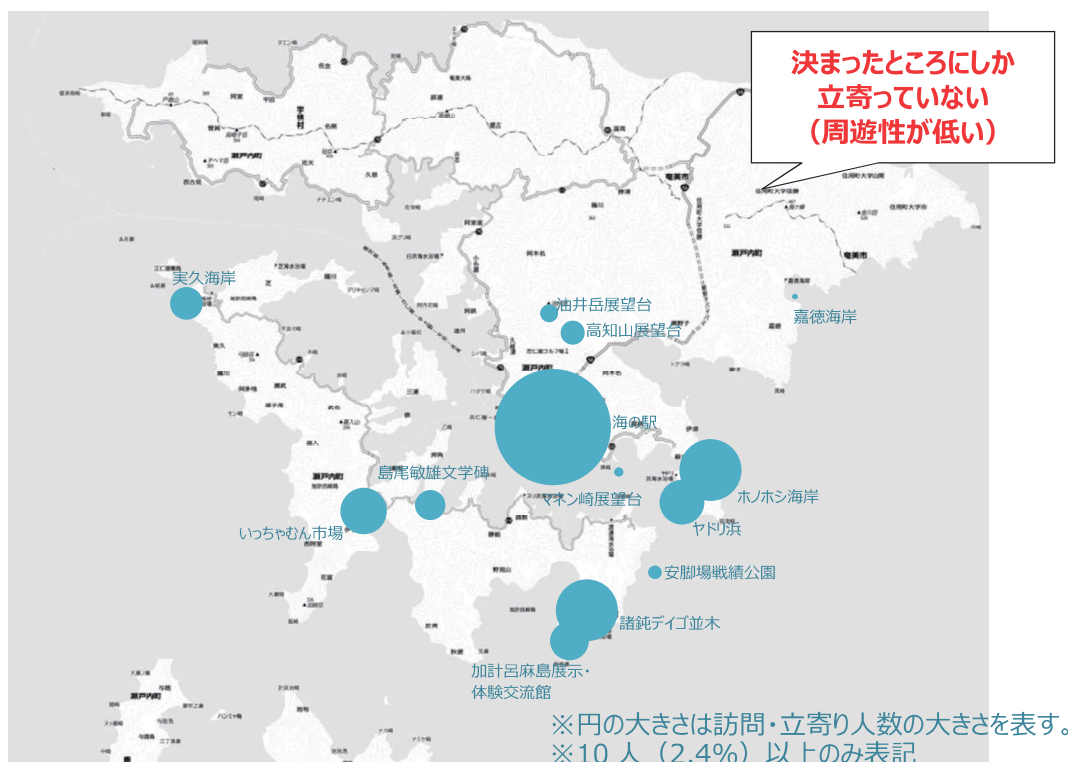
## オ) 町内での訪問地・立寄り先

今回の旅行中における町内での訪問地・立寄り先については、「せとうち海の駅」が58.9%で最も多く、次いで「諸鈍デイゴ並木」と「ホノホシ海岸」(31.3%)、「いっちゃん市場」(23.4%)などとなっている。

町内での訪問地・立寄り先 (N=418, 複数回答)

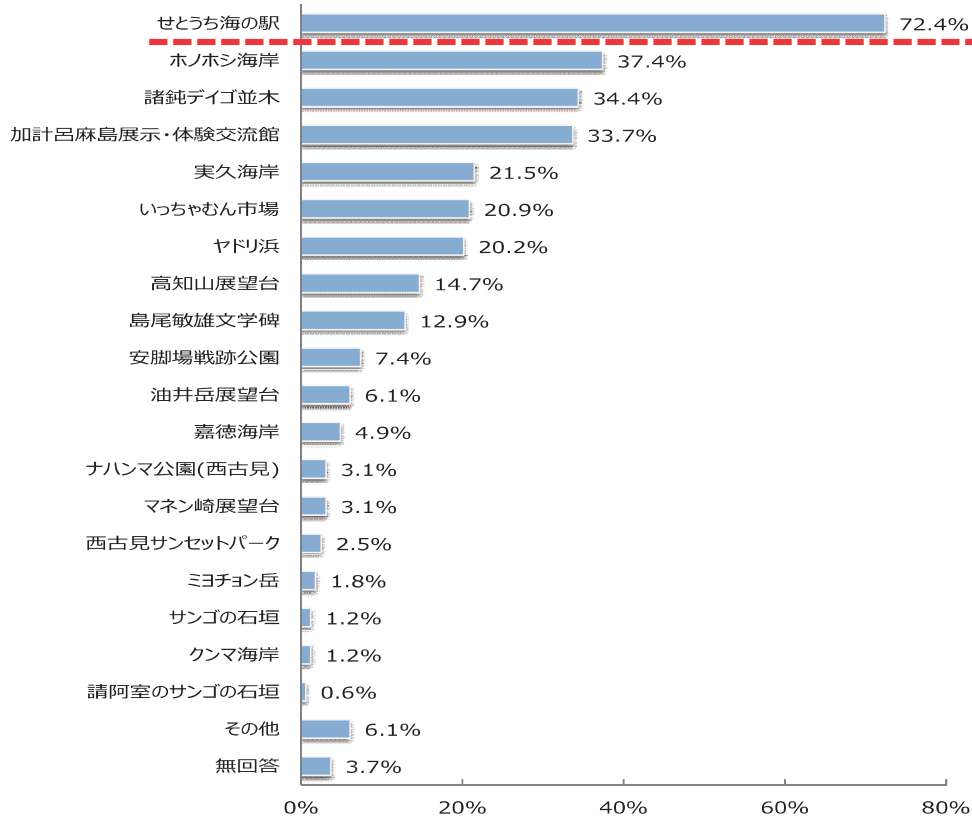


せとうち海の駅へ6割が来訪  
一方、他の観光スポットは3割より↓

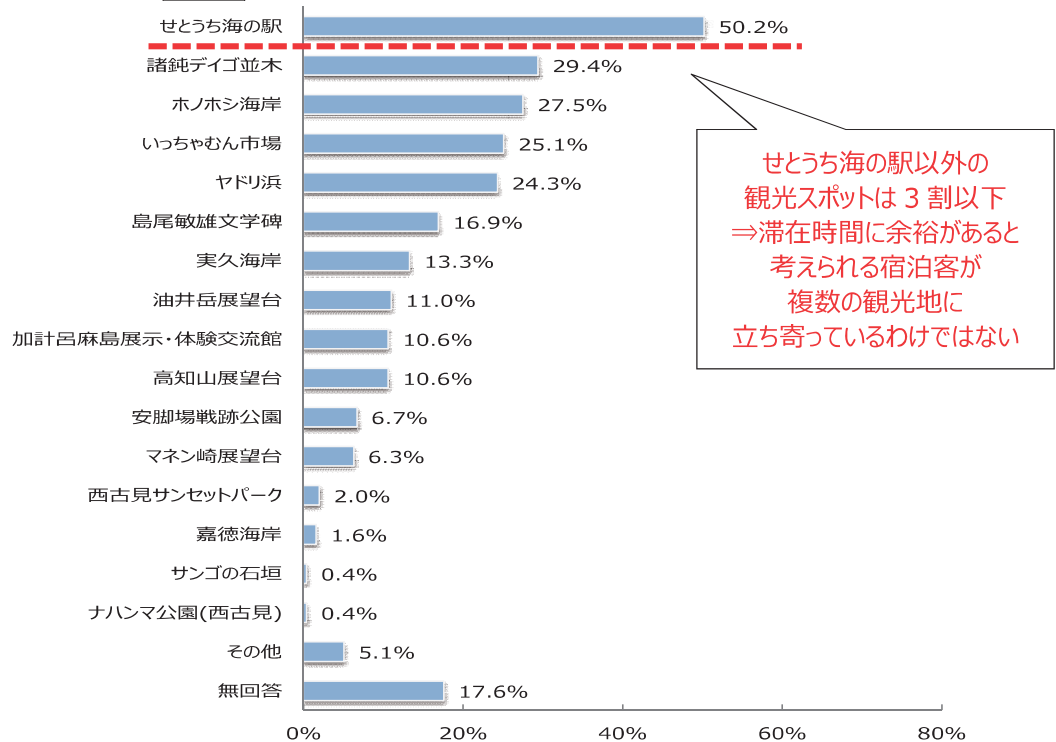


訪問地・立寄り先について来訪者（主に日帰り客）・宿泊客別にみても、滞在時間に余裕があると考えられる宿泊客がより多くの観光地に立ち寄っているわけではないことがうかがえる。

**来訪者**（主に日帰り） 町内での訪問地・立寄り先（N=163，複数回答）

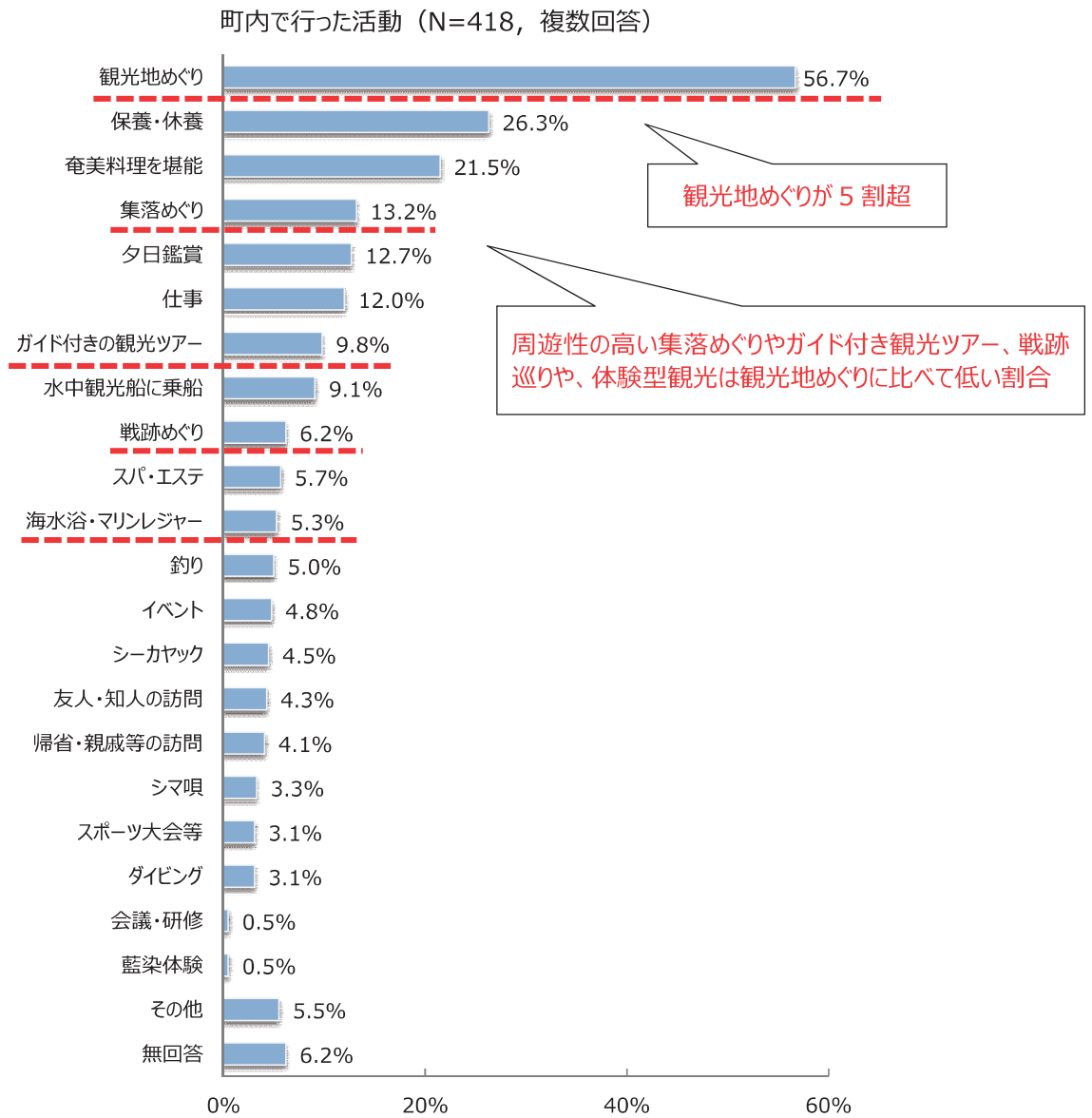


**宿泊客** 町内での訪問地・立寄り先（N=255，複数回答）



## カ) 町内で行った活動

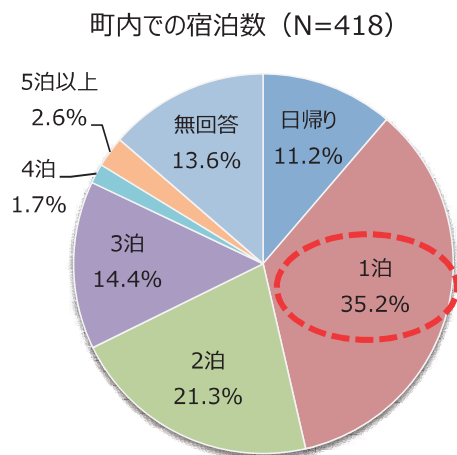
今回の旅行中に行った活動については、「観光地めぐり」が56.7%で最も多く、次いで「保養・休養」(26.3%)、「奄美料理を堪能」(21.5%)などとなっている。



## キ) 町内での宿泊数・町外での宿泊数

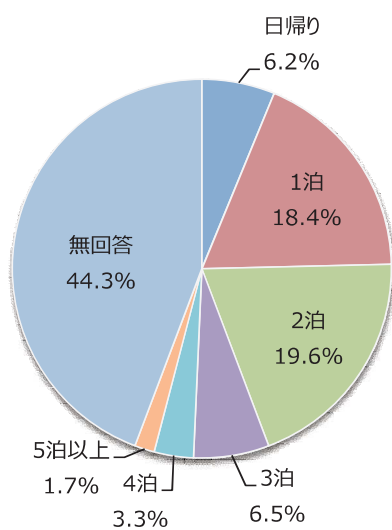
今回の旅行における町内・町外それぞれの宿泊数について、町内での宿泊数は、「1泊」が35.2%と最も多く、次いで「2泊」(21.3%)、「3泊」(14.4%)となっている。

町外での宿泊数は、「2泊」が19.6%と最も多く、次いで「1泊」(18.4%)となっている。



宿泊した人の本町内での  
平均宿泊数：1.9泊  
(※1か月以上の宿泊は除く)

瀬戸内町以外での宿泊数 (N=418)



宿泊した人の町外での  
平均宿泊数：2.1泊  
(※1か月以上の宿泊は除く)

## ク) 一人当たりの平均消費額

町内での一人当たりの平均消費額は、40,102円となっており、内訳は宿泊費 25,395円 (58.2%)、町内での交通費 4,142円 (9.5%)、土産品・買い物 4,756円 (10.9%)、飲食費 5,223円 (12.0%)、娯楽費・入場料 3,235円 (7.4%)、その他 897円 (2.1%) となっており、宿泊費が最も多くなっている。

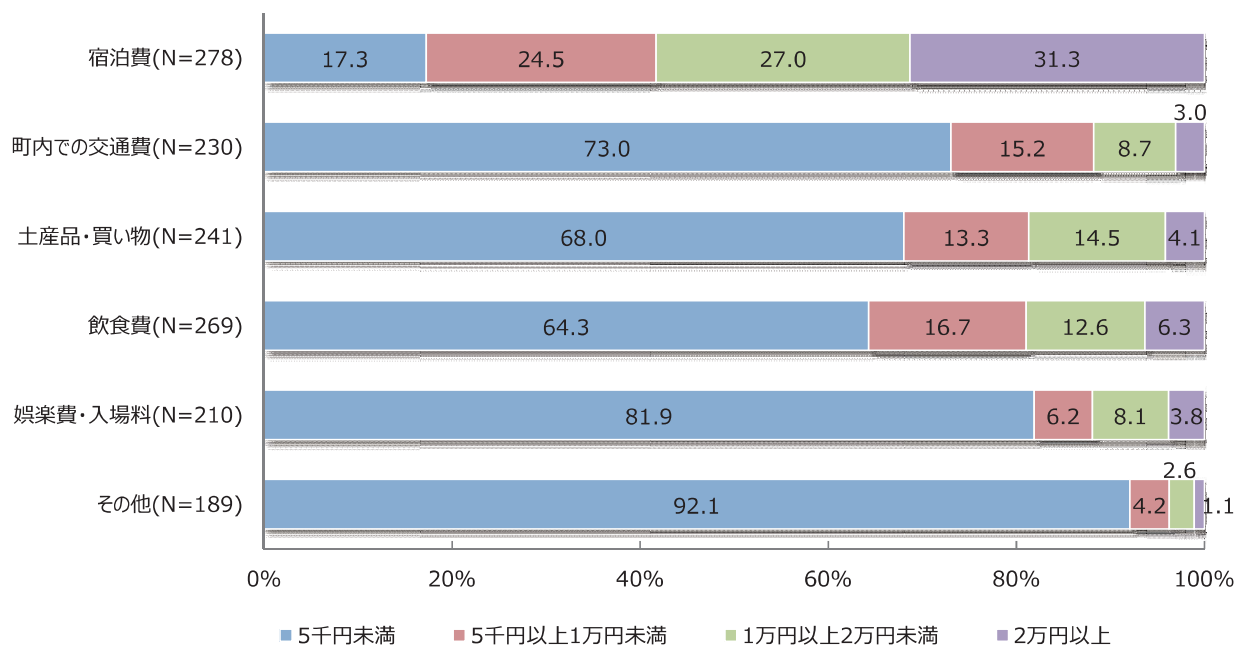
一人当たりの平均消費額 (N=418)

宿泊費以外の消費は  
5千円未満が6割以上

消費項目	宿泊費	町内での交通費	土産品・買い物	飲食費	娯楽費・入場料	その他	合計
平均消費額	25,395	4,142	4,756	5,223	3,235	897	40,102
構成比	58.2%	9.5%	10.9%	12.0%	7.4%	2.1%	

[円/人]

※回収調査票に記入された金額で集計しているため、内訳の計と合計は一致しない。  
内訳の構成比は内訳の計を100%として算出している。

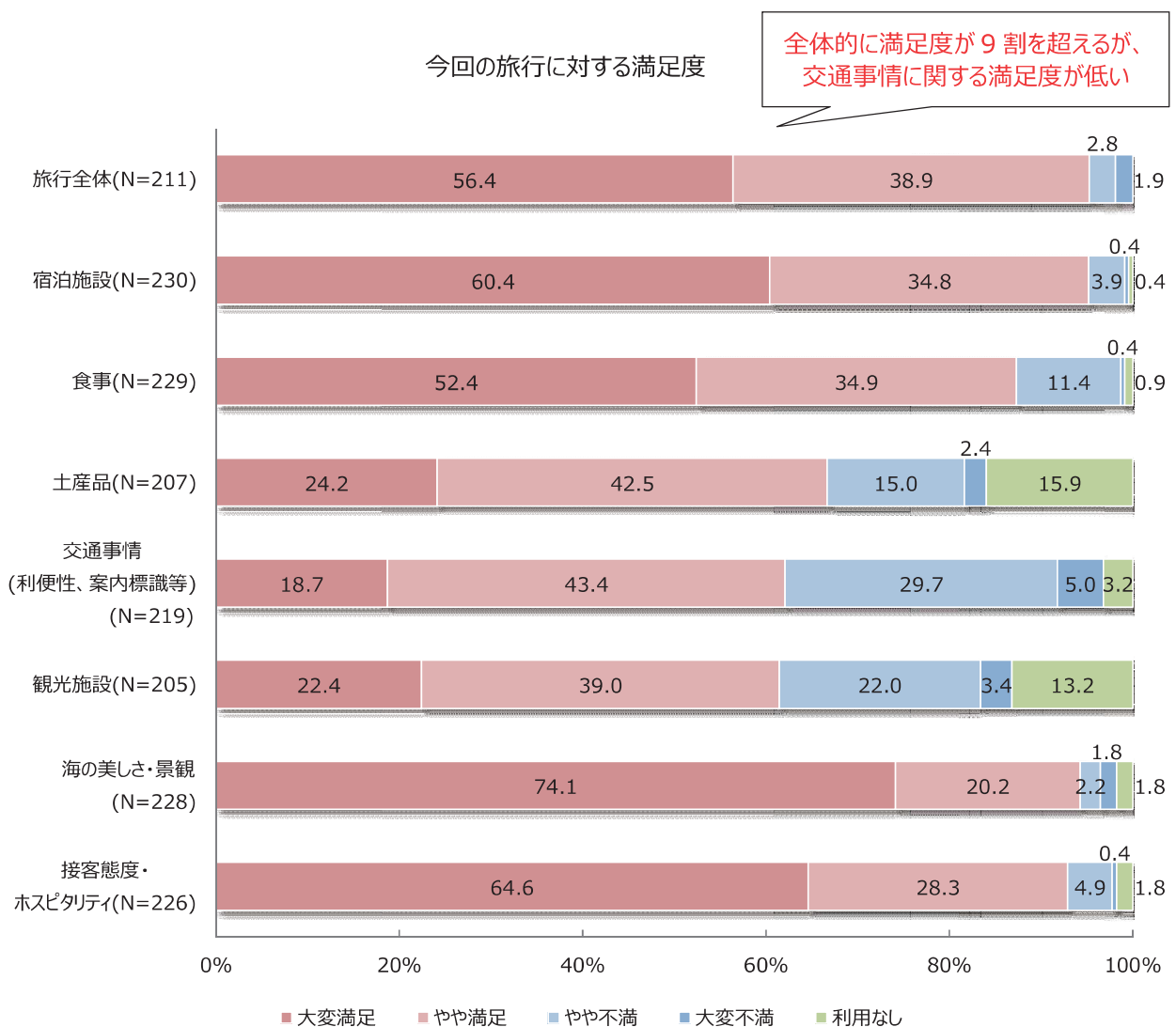


## ケ) 宿泊客の今回の旅行に対する満足度

今回の旅行に対する満足度について、旅行全体では『満足』（「大変満足」と「やや満足」の合計、以下同様）が95.3%を占め、『不満』（「大変不満」と「やや不満」の合計、以下同様）は4.7%にとどまっている。

「宿泊施設」、「食事」、「土産品」、「交通事情」、「観光施設」、「海のみしさ・景観」、「接客態度・ホスピタリティ」の7つの個別項目の満足度をみると、「宿泊施設」、「食事」、「海のみしさ・景観」、「接客態度・ホスピタリティ」では『満足』が8割以上となっている。

その一方で、「土産品」、「交通事情」、「観光施設」では『満足』が半数以上を占めているものの、『不満』が1割以上みられており、特に「交通事情」は34.7%と3割以上が不満を感じていることがうかがえる。



## コ) 自由意見

主な自由意見は以下のとおり。

### ○瀬戸内町の雰囲気

- ・今の加計呂麻が好き。あまり便利にならなくていいと思う。店の人、地元の人が優しくしてくれるのが良い。(2回目/女性/20代/千葉県)
- ・いつかここで住みたいと思う町の一つです。空港から遠いのでアクセス面には不便を感じますが、だからこそ来たくなるのかもしれない(2回目/男性/40代/大阪府)
- ・あまり派手派手しい観光化をしないでほしい。環境に優しく伝統文化を長く残してほしい。都会にないものを残すのが、一番良いと思います。(2回目/男性/40代/三重県)
- ・今のままのホスピタリティがずっと続いてほしい。今回特に人の優しさ、温かさが本当に素晴らしいと感じ、これがずっと変わらないでほしいな…と思いました。ただ、空港からの距離がかなりあるので、本当は送迎(有料の循環バス等)があってもいいのかなと思ったりもしました。ですがレンタカーで長い道りに乗ってきて着いた時の喜びがあるにはあります(2回目/女性/40代/神奈川県)
- ・海と空の美しさ。ゆったりした時間の流れ。ホスピタリティのある人々との交流等に大変嬉しく思った。地図が道路にもっとあるとありがたい。(初めて/男性/50代/長野県)
- ・人が温かい。食べ物が美味しい(鶏飯など)。沖縄みたいに観光地化していないところがいい。オフシーズンだったが、見るもの、食べ物が新鮮でとても楽しんでいる。奄美にハマってしまった。(初めて/女性/50代/東京都)
- ・50年前のハワイの趣きの所があると聞き、奄美大島へ初めて訪ねました。海外も多く訪ねましたが、日本の良さを今回の旅で知りました。次回は加計呂麻島へ予定致しまして、資料もご親切に頂まして、夢も広がりました。レンタカーの旅、信号も少なく時間の節約にもなりまして、行動範囲が広がった奄美大島の旅でした。(初めて/女性/70歳以上/千葉県)

### ○ハードに関して

- ・道の駅など、地域の野菜や鮮魚、肉が並んでいる施設がもっとあると立ち寄る楽しみがある。土産に買い求めたい。(初日に発送してしまう等)(2回目/男性/40代/大阪府)
- ・加計呂麻島内の出先での食事処が無さすぎる。加計呂麻島内の交通手段(バス運行の間隔の短縮・増便)。良いところは手つかずの素晴らしい自然!ぜひ大切に守ってください。宿の食事は「大変満足」でした。(2回目/女性/50代/東京都)
- ・駐車場がない(3回目/男性/50代/福岡県)
- ・道路の整備(加計呂麻は時に)草はらいなど。路肩の草・木などで、なおさら道幅が狭くなり視界も悪かった。(4回目/女性/40代/鹿児島県)
- ・街中に海が見えるスポットがほしい。海の駅では海に近づける経路がほしい。海から離れ、待合になっているのがもったいない。街中の空き店舗などが気になる。海のおおらかなプールがとてもいいと思う。ここでしか食べられない・買えない物がもう

少し増えるとまた来たくなる。(5~9回目/男性/40代/広島県)

- ・冬場の遊びがほしい(釣り堀、子どもが遊べるもの)。(10回以上/男性/50代/愛知県)
- ・車の免許がないので、バスの本数が少ないのは痛いなあと思いました。でもそこものんびりできる良いところなのかもしれませんが、もう少しあるとありがたいです。(初めて/女性/30代/兵庫県)
- ・公衆トイレを観光施設の一部と考え、もっと清潔にして頂けるとありがたいです。また、トイレ数を増やしていただけると助かります。島在住の方々の温かさに触れ、とても穏やかな気持ちになりました。サンゴ塩の工場が閉鎖されたと聞きました。貴重な塩で加計呂麻の財産だと思います。シーグラス拾いがとても楽しかったです。潮の流れに合わせて、時が経つと浜に流れ着く場所(沖で)を探して、砕いたビンのかけらを沈めてみては?今、シーグラスは貴重品のようになっていて(人工的に作れない)良い「島おこし」になるかもしれません。(初めて/女性/50代/千葉県)

### ○ソフトに関して

- ・瀬戸内の人たちとの交流がないです。少し大きめなお土産の店があるといいです。(2回目/女性/50代/愛知県)
- ・リゾート感と郷土感が共存しており本当に良かったです(初めて/女性/30代/大阪府)
- ・都会暮らしをしているため、日没後の町がすごく暗く感じました。もっと明るく、という方もいるかと思いますが、今のままを大切にしていってください。また島の方たちには受け入れ難いかもしれませんが、旧日本軍の施設はもう少しきちんと町が管理・保存していく方が良いと思います。戦跡を巡るツアーがあれば、私は参加したかったです。(初めて/男性/50代/兵庫県)
- ・どの土産店売り場や物産店に行っても同じ商品が並んでいるだけで商店や食事店ごとの1店1店の売りが残念でした。1店に1品の目玉商品があればもう少し活性化すると思いました。ただ、色んな意味での「ゆるさ」を無くさないでほしいと思いました。(初めて/男性/50代/静岡県)

### ○情報に関して

- ・カケロマウエルカムが冒険心をそそる。前回、加計呂麻に来た時、コンテナみたいな店でたんかんが入ったうどんを食べ、そのうどんを出してくれたおじさんと話ができてとても楽しかった。東京では体験できない。(2回目/女性/20代/東京都)
- ・夕食をとろうとガイドブックで見たお店が2軒とも貸切で入れず、その他の2軒も満席でお店の人が出てきてくれませんでした。お店が少ないので、そういう情報も事前に分かってうれしいです。夜の食事のことを考えると名瀬になってしまう。(4回目/女性/50代/埼玉県)
- ・交通関係、船と乗継バスの時刻表。「たぶんそんなもの港にあるだろう」と思われるかもしれないが、小さなパスケースに入れられるぐらいの時刻表があるといい。色々な旅の計画が立てられる。(5~9回目/男性/70歳以上/東京都)
- ・日本一のマグロ養殖地というものの、どこで食べられるか全く分からないし、食べた

ことがない。残念！もっとマグロを前面に出した町の活性化を目指してほしい。食べるお店が分からない。物産はどこで売っているか？（10回以上/女性/50代/愛媛県）

- ・観光スポットやお食事処など、ネットで見れる情報量が薄い。道路標識や観光地図など（公衆トイレの場所も）、分かりやすく距離や時間など教えてもらいたいです。日曜日に空いているお店が少ないのかなあと感じました。観光地化が進んでほしいようなほしくない様な、そんな素敵な所が魅力的です。（初めて/女性/30代/福岡県）



諸鈍 デイゴ並木

## (4) 地域の意向（地区長アンケート調査）

地区の自慢や観光資源を把握し、隠れた資源を整理するとともに、地域の意向を把握するため、各地区の区長を対象としたアンケートを実施した。

### ① アンケート調査概要

地区長向けアンケート調査概要は以下のとおり。

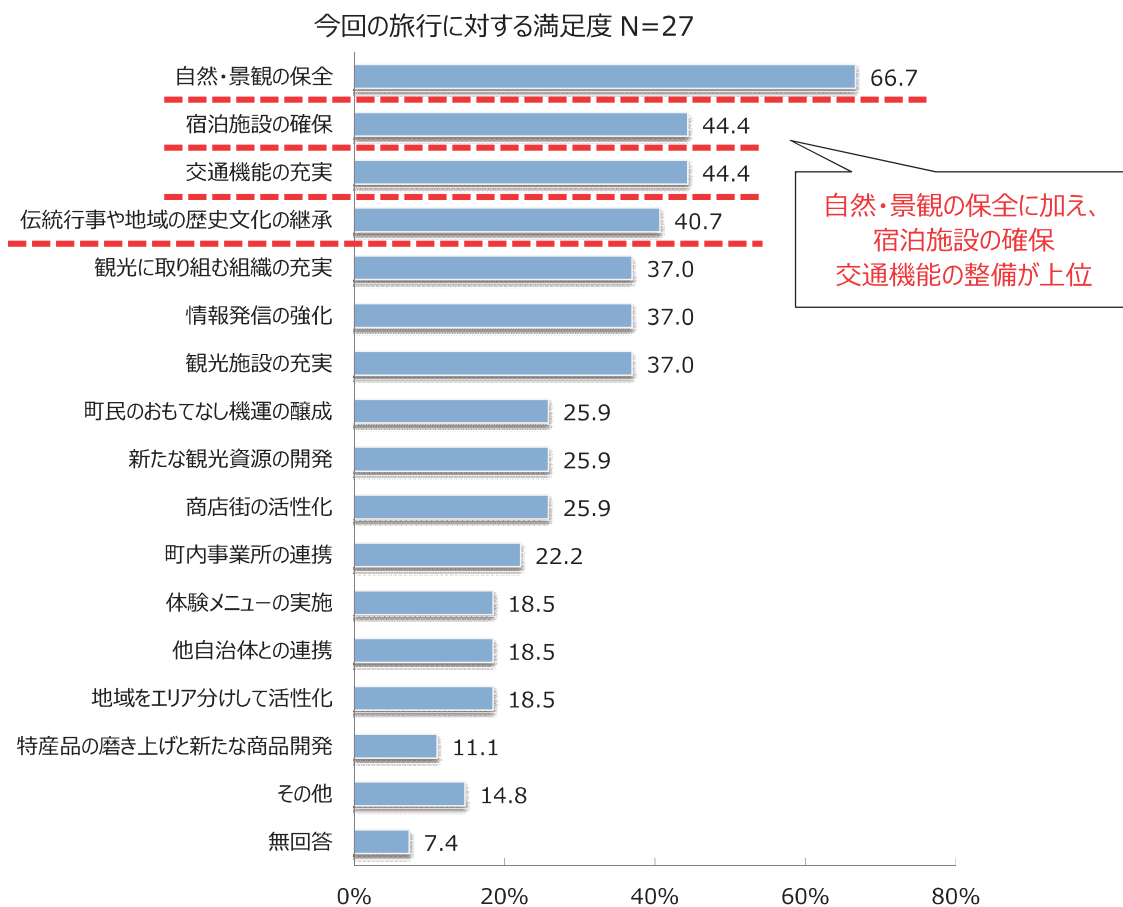
〔地区長向けアンケート調査概要〕

対象者	区長（全 55 名）
調査日	平成 29 年 11 月
調査項目	集落の観光に関する意見・提案、集落の観光資源、観光を振興する上で必要なこと
有効回答数	27 件

### ② 調査結果

#### ア) 観光を振興する上で必要なこと

観光を振興する上で必要なことについて、「自然・景観の保全」が 66.7%で最も多く、次いで「宿泊施設の確保」、「交通機能の充実」、「伝統行事や地域の歴史文化の継承」などとなっている。



## (5) 瀬戸内町の観光の課題

これまでの調査から、本町における観光の課題として、次のとおり整理した。

### ① 情報発信・プロモーションの強化

交流人口動態調査（2015年度）交流人口動態調査によると、奄美大島への来訪者のうち、本町まで来ているのは1/3程度にとどまっている。

今後、NHK大河ドラマ「西郷どん」や世界自然遺産登録による観光入込客の増加が予想されるため、奄美空港・名瀬港からの観光入込客へ本町の魅力に関する情報発信を行い、本町まで呼び込む仕組みが必要である。

### ② 町内の回遊性向上と滞留時間延長のための仕掛けづくり

来訪者・宿泊者アンケート結果から、海の駅やホノホシ海岸、加計呂麻では体験交流館など、決まった場所にしか行かず、複数の立寄りや回遊性が低い状況となっている。

町内回遊性の向上、滞在時間延長のために、町内各地で観光資源の発掘・磨き上げや、町内の受入環境を整備し、来訪者へ楽しみ方を提案する必要がある。

### ③ 町民の我が事意識の醸成と人づくり、連携強化

LCCの就航により、本町への来訪者は増加しているが、宿泊業など一部の観光関係者を除く他の産業従事者や町民の方々は「我が事として捉えていないのではないか」といったことや、「問題意識を持っている人は多いが、一歩が踏み出せない」といった声がヒアリング調査で挙げられた。

観光は、地域づくりや産業振興、雇用の創出に大きな役割を果たし、宿泊業のみならず、飲食業、小売業、さらには農林水産業、製造業など広範囲の産業への波及効果が見込まれる。

観光に取り組むことで、町民生活の利便性が高まり、所得が増えるという認識や実感でいることが必要になる。

町内での観光推進体制を構築し、町内各関係機関との情報共有・積極的な連携により、観光に関わる団体・人を増やし、我が事意識の底上げにつながる取り組みが求められる。